

法学研究科 法学研究科 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	知的財産法I 休講	集中	1	2	2
	知的財産法II (読替科目：知的財産法II) 小川 明子	集中	1	2	
		1年			
■政策科学系科目 ■専門科目	現代政治論I 休講	集中	1	2	3
	現代政治論II (読替科目：現代政治論II) 松尾 哲也	集中	1	2	
		1年			
	都市環境論I 休講	2学期	1	2	
	都市環境論II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	NPO・社会起業論I 休講	1学期	1	2	4
	NPO・社会起業論II (読替科目：NPO・社会起業論II) 雪松 直子	1学期	1	2	
		1年			
	都市計画論I 休講	1学期	1	2	
	都市計画論II 休講	1学期	1	2	
		1年			
	自治体政策論I 休講	2学期	1	2	
	自治体政策論II 休講	2学期	1	2	
	1年				

法学研究科 法学研究科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専攻共通科目	法政総合演習 (読替科目：法政総合演習)	1学期	1	2	5	
	法学研究科担当教員	1年				
■法学系科目 ■専門基礎科目	法律文献調査 (読替科目：法律文献調査)	1学期	1	2	6	
	法律学科教員	1年				
■専門科目	憲法AI	1学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法AII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法AIII	1学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法AIV	2学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法BI	1学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法BII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	憲法BIII (読替科目：憲法BIII)	中村 英樹	1学期	1	2	7
			1年			
	憲法BIV (読替科目：憲法BIV)	中村 英樹	2学期	1	2	8
			1年			
	行政法AI	休講	1学期	1	2	
			1年			
	行政法AII	休講	2学期	1	2	
			1年			
行政法AIII (読替科目：行政法AIII)	近藤 卓也	1学期	1	2	9	
		1年				
行政法AIV (読替科目：行政法AIV)	近藤 卓也	2学期	1	2	10	
		1年				
行政法BI	休講	1学期	1	2		
		1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	行政法BII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法BIII (読替科目 : 行政法BIII)	1学期	1	2	11
	堀澤 明生	1年			
	行政法BIV (読替科目 : 行政法BIV)	2学期	1	2	12
	堀澤 明生	1年			
	行政法CI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CIII	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CIV	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AIII (読替科目 : 民法AIII)	1学期	1	2	13
	矢澤 久純	1年			
民法AIV (読替科目 : 民法AIV)	2学期	1	2	14	
矢澤 久純	1年				
民法BI	1学期	1	2		
休講	1年				
民法BII	2学期	1	2		
休講	1年				
民法BIII (読替科目 : 民法BIII)	1学期	1	2	15	
福本 忍	1年				
民法BIV (読替科目 : 民法BIV)	2学期	1	2	16	
福本 忍	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■法律学系科目 ■専門科目	民法CI 休講	1学期	1	2	
	1年				
	民法CII 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民法CIII (読替科目 : 民法CIII) 丸山 愛博	1学期	1	2	17
	1年				
	民法CIV (読替科目 : 民法CIV) 丸山 愛博	2学期	1	2	18
	1年				
	民法DI 休講	1学期	1	2	
	1年				
	民法DII 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民法DIII (読替科目 : 民法DIII) 清水 裕一郎	1学期	1	2	19
	1年				
	民法DIV (読替科目 : 民法DIV) 清水 裕一郎	2学期	1	2	20
	1年				
	商法AI 休講	1学期	1	2	
	1年				
	商法AII 休講	2学期	1	2	
	1年				
商法AIII (読替科目 : 商法AIII) 今泉 恵子	1学期	1	2	21	
1年					
商法AIV (読替科目 : 商法AIV) 今泉 恵子	2学期	1	2	22	
1年					
商法BI 休講	1学期	1	2		
1年					
商法BII 休講	2学期	1	2		
1年					
商法BIII (読替科目 : 商法BIII) 高橋 衛	1学期	1	2	23	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法律学系科目 ■専門科目	商法BIV (読替科目：商法BIV) 高橋 衛	2学期	1	2	24
		1年			
	民事訴訟法AI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	民事訴訟法AII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民事訴訟法AIII (読替科目：民事訴訟法AIII) 齋藤 友美子	1学期	1	2	25
		1年			
	民事訴訟法AIV (読替科目：民事訴訟法AIV) 齋藤 友美子	2学期	1	2	26
		1年			
	民事訴訟法BI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	民事訴訟法BII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民事訴訟法BIII (読替科目：民事訴訟法BIII) 渡邊 典子	1学期	1	2	27
		1年			
	民事訴訟法BIV (読替科目：民事訴訟法BIV) 渡邊 典子	2学期	1	2	28
		1年			
	刑法AI 休講	1学期	1	2	
		1年			
刑法AII 休講	2学期	1	2		
	1年				
刑法AIII (読替科目：刑法AIII) 土井 和重	1学期	1	2	29	
	1年				
刑法AIV (読替科目：刑法AIV) 土井 和重	2学期	1	2	30	
	1年				
刑法BI 休講	1学期	1	2		
	1年				
刑法BII 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	刑法BIII (読替科目：刑法BIII) 大杉 一之	1学期	1	2	31
		1年			
	刑法BIV (読替科目：刑法BIV) 大杉 一之	2学期	1	2	32
		1年			
	刑事訴訟法I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	刑事訴訟法II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	刑事訴訟法III (読替科目：刑事訴訟法III) 水野 陽一	1学期	1	2	33
		1年			
	刑事訴訟法IV (読替科目：刑事訴訟法IV) 水野 陽一	2学期	1	2	34
		1年			
	刑事学I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	刑事学II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	刑事学III (読替科目：刑事学III) 藤田 尚	1学期	1	2	35
		1年			
	刑事学IV (読替科目：刑事学IV) 藤田 尚	1学期	1	2	36
		1年			
労働法I 休講	1学期	1	2		
	1年				
労働法II 休講	2学期	1	2		
	1年				
労働法III (読替科目：労働法III) 岡本 舞子	1学期	1	2	37	
	1年				
労働法IV (読替科目：労働法IV) 岡本 舞子	2学期	1	2	38	
	1年				
社会保障法I 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	社会保障法II	2学期	1	2	
	休講	1年			
	社会保障法III (読替科目: 社会保障法III)	1学期	1	2	39
	津田 小百合	1年			
	社会保障法IV (読替科目: 社会保障法IV)	2学期	1	2	40
	津田 小百合	1年			
	国際法I	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際法II	2学期	1	2	
	休講	1年			
	国際法III (読替科目: 国際法III)	1学期	1	2	41
	二宮 正人	1年			
	国際法IV (読替科目: 国際法IV)	2学期	1	2	42
	二宮 正人	1年			
	日本法制史I	1学期	1	2	
	休講	1年			
	日本法制史II	2学期	1	2	
	休講	1年			
	日本法制史III	1学期	1	2	
	休講	1年			
日本法制史IV	2学期	1	2		
休講	1年				
法哲学I	1学期	1	2		
休講	1年				
法哲学II	2学期	1	2		
休講	1年				
法哲学III (読替科目: 法哲学III)	1学期	1	2	43	
重松 博之	1年				
法哲学IV (読替科目: 法哲学IV)	2学期	1	2	44	
重松 博之	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■専門科目	法律実務特講I	1学期	1	2	45
		1年			
	法律実務特講II (読替科目 : 法律実務特講II) 末廣清二・小宮香織・根岸大将	1学期	1	2	45
		1年			
■特別研究科目	憲法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	憲法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	憲法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	憲法特別研究II (読替科目 : 憲法特別研究II) 中村 英樹	1・2学期 (ペア)	1	4	46
		1年			
	行政法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	行政法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	民法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	民法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	46
	休講	1年			
	民法特別研究II (読替科目 : 民法特別研究II) 矢澤 久純	1・2学期 (ペア)	1	4	47
		1年			
	民法特別研究II (読替科目 : 民法特別研究II) 福本 忍	1・2学期 (ペア)	1	4	48
		1年			
民法特別研究II (読替科目 : 民法特別研究II) 丸山 愛博	1・2学期 (ペア)	1	4	49	
	1年				
商法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	49	
休講	1年				
商法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	49	
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■法律学系科目 ■特別研究科目	民事訴訟法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	民事訴訟法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑法特別研究II (読替科目：刑法特別研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	50
	土井 和重	1年			
	刑事訴訟法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑事訴訟法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑事学特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	刑事学特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	労働法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	労働法特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
社会保障法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
社会保障法特別研究II (読替科目：社会保障法特別研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	51	
津田 小百合	1年				
国際法特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
国際法特別研究II (読替科目：国際法特別研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	52	
二宮 正人	1年				
日本法制史特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				

法学研究科 法学研究科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■法律学系科目 ■特別研究科目	日本法制史特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4		
	休講	1年				
	法哲学特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
	休講	1年				
	法哲学特別研究II (読替科目: 法哲学特別研究II)	重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	53
	休講	1年				
■特定課題研究科目	私法領域特定課題研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
	休講	1年				
	私法領域特定課題研究II (読替科目: 私法領域特定課題研究II)	矢澤 久純	1・2学期 (ペア)	1	4	54
	休講	1年				
	公法領域特定課題研究I	休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年				
公法領域特定課題研究II (読替科目: 公法領域特定課題研究II)	重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	55	
休講	1年					
■政策科学系科目 ■専門基礎科目	政策調査法 (読替科目: 政策調査法)	政策科学科教員	1学期	1	2	56
	休講	1年				
■専門科目	政治学I	上條 諒貴	1学期	1	2	1
	休講	1年				
	政治学II (読替科目: 政治学II)	上條 諒貴	2学期	1	2	57
	休講	1年				
	政治学III (読替科目: 政治学III)	中井 遼	1学期	1	2	58
	休講	1年				
	政治学IV (読替科目: 政治学IV)	中井 遼	1学期	1	2	59
	休講	1年				
	行政学I	休講	1学期	1	2	
	休講	1年				
	行政学II	休講	2学期	1	2	
	休講	1年				
行政学III (読替科目: 行政学III)	森 裕亮	1学期	1	2	60	
休講	1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策科学系科目 ■専門科目	行政学Ⅳ (読替科目：行政学Ⅳ) 森 裕亮	2学期	1	2	61
		1年			
	政治思想史Ⅰ 休講	1学期	1	2	
		1年			
	政治思想史Ⅱ 休講	2学期	1	2	
		1年			
	政治思想史Ⅲ (読替科目：政治思想史Ⅲ) 大澤 津	1学期	1	2	62
		1年			
	政治思想史Ⅳ (読替科目：政治思想史Ⅳ) 大澤 津	2学期	1	2	63
		1年			
	途上国開発論Ⅰ 休講	1学期	1	2	
		1年			
	途上国開発論Ⅱ 休講	2学期	1	2	
		1年			
	途上国開発論Ⅲ (読替科目：途上国開発論Ⅲ) 三宅 博之	1学期	1	2	64
		1年			
	途上国開発論Ⅳ (読替科目：途上国開発論Ⅳ) 三宅 博之	2学期	1	2	65
		1年			
	産業政策論Ⅰ 休講	1学期	1	2	
		1年			
産業政策論Ⅱ 休講	2学期	1	2		
	1年				
産業政策論Ⅲ (読替科目：地域経済政策論Ⅲ) 田代 洋久	1学期	1	2	66	
	1年				
産業政策論Ⅳ (読替科目：地域経済政策論Ⅳ) 田代 洋久	2学期	1	2	67	
	1年				
公共政策論Ⅰ 休講	1学期	1	2		
	1年				
公共政策論Ⅱ 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策科学系科目 ■専門科目	公共政策論III (読替科目：公共政策論III) 榎原 真二	1学期	1	2	68
		1年			
	公共政策論IV (読替科目：公共政策論IV) 榎原 真二	2学期	1	2	69
		1年			
	福祉政策論I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	福祉政策論II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	福祉政策論III (読替科目：福祉政策論III) 狭間 直樹	1学期	1	2	70
		1年			
	福祉政策論IV (読替科目：福祉政策論IV) 狭間 直樹	2学期	1	2	71
		1年			
	環境政策論I 休講	1学期	1	2	
		1年			
	環境政策論II 休講	2学期	1	2	
		1年			
	環境政策論III (読替科目：環境政策論III) 申 東愛	1学期	1	2	72
		1年			
	環境政策論IV (読替科目：環境政策論IV) 申 東愛	2学期	1	2	73
		1年			
政策評価論I 休講	1学期	1	2		
	1年				
政策評価論II 休講	2学期	1	2		
	1年				
政策評価論III (読替科目：政策評価論III) 横山 麻季子	1学期	1	2	74	
	1年				
政策評価論IV (読替科目：政策評価論IV) 横山 麻季子	2学期	1	2	75	
	1年				
比較政治経済学I 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■政策科学系科目 ■専門科目	比較政治経済学II	2学期	1	2		
	休講	1年				
	比較政治経済学III	1学期	1	2		
	休講	1年				
	比較政治経済学IV	2学期	1	2		
	休講	1年				
	■特別研究科目	政治学特別研究I	1・2学期(ペア)	1	4	
		休講	1年			
		政治学特別研究II	1・2学期(ペア)	1	4	
休講		1年				
行政学特別研究I		1・2学期(ペア)	1	4		
休講		1年				
行政学特別研究II (読替科目:行政学特別研究II)		1・2学期(ペア)	1	4		76
森 裕亮		1年				
政治思想史特別研究I		1・2学期(ペア)	1	4		
休講		1年				
政治思想史特別研究II (読替科目:政治思想史特別研究II)		1・2学期(ペア)	1	4		77
大澤 津		1年				
途上国開発論特別研究I		1・2学期(ペア)	1	4		
休講		1年				
途上国開発論特別研究II (読替科目:途上国開発論特別研究II)		1・2学期(ペア)	1	4		78
三宅 博之		1年				
産業政策論特別研究I		1・2学期(ペア)	1	4		
休講		1年				
産業政策論特別研究II (読替科目:地域経済政策論特別研究II)		1・2学期(ペア)	1	4		79
田代 洋久		1年				
公共政策論特別研究I		1・2学期(ペア)	1	4		
休講	1年					
公共政策論特別研究II (読替科目:公共政策論特別研究II)	1・2学期(ペア)	1	4	80		
楢原 真二	1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■政策科学系科目 ■特別研究科目	福祉政策論特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	福祉政策論特別研究II (読替科目: 福祉政策論特別研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	81
	狭間 直樹	1年			
	環境政策論特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	環境政策論特別研究II (読替科目: 環境政策論特別研究II)	通年	1	4	82
	申 東愛	1年			
	政策評価論特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	政策評価論特別研究II (読替科目: 政策評価論特別研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	83
	横山 麻季子	1年			
比較政治経済学特別研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
比較政治経済学特別研究II	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
■特定課題研究科目	地域政策特定課題研究I	1・2学期 (ペア)	1	4	
	休講	1年			
	地域政策特定課題研究II (読替科目: 地域政策特定課題研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	84
	檜原 真二 他	1年			
比較政策特定課題研究I	1・2学期 (ペア)	1	4		
休講	1年				
比較政策特定課題研究II (読替科目: 比較政策特定課題研究II)	1・2学期 (ペア)	1	4	85	
三宅 博之 他	1年				

政治学I【夜】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治学分野の知識を修得する。
技能	○	社会の政治的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治学 I

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は、現代民主政治の理論的・実証的分析に関するレビューを講読することで、政治学研究に必要な基礎知識を身に付けると共に、政治学の学説的理解及び現在の研究動向/水準を把握することをその目的とする。

具体的には、Oxford Handbookシリーズから報告者の関心に応じて毎週1章を選んで報告をしてもらい、議論を行う。

民主主義諸国の政治に関心があれば幅広く歓迎するが、教員の専門上、政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなる。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】政治学に関する基礎的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】政治学に必要な情報を収集することができる。

教科書 /Textbooks

上記の通り、Oxford Handbookシリーズの中から関心のあるものを自由に選択してもらって構わないが、特に念頭に置いているのは以下の3冊である。

- ・ Martin, Shane, Thomas Saalfeld, and Kaare Strøm. eds. 2014. The Oxford Handbook of Legislative Studies, Oxford University Press.
- ・ Wittman, Donald A. and Barry R. Weingast. eds. 2006. The Oxford Handbook of Political Economy. Oxford University Press.
- ・ Herron, Erik S., Robert J. Pekkanen, and Matthew S. Shugart. eds. 2018. The Oxford Handbook of Electoral Systems. Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション・自己紹介・担当決め
- 第2回 文献講読
- 第3回 文献講読
- 第4回 文献講読
- 第5回 文献講読
- 第6回 文献講読
- 第7回 文献講読
- 第8回 中間まとめ、各自の興味関心について
- 第9回 文献講読
- 第10回 文献講読
- 第11回 文献講読
- 第12回 文献講読
- 第13回 文献講読
- 第14回 文献講読
- 第15回 まとめ

政治学I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参加者全員が事前に文献を精読し、コメントを用意してることが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産法II 【昼】

担当者名 /Instructor 小川 明子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW542S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	知的財産法II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、著作権法を総合的に理解した上で、「権利者の保護」と「公正な利用」の両方の観点から、現在起きている著作権に係る諸問題について検討する。ただし、事前に法的な知識を備えている必要はなく、誰もが知っておくべき著作権といった観点からの講義である。具体的には以下のような内容を予定している。

- ①著作権法の概要
- ②著作権侵害行為
- ③著作権法による保護と自由利用のバランス
- ④海外の著作権法および国際条約

【到達目標】

知的財産法に関する高度で総合的な知識を身につけている
知的財産法上の問題に対する高い論理的思

教科書 /Textbooks

毎回レジュメ等を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

島並・上野・横山『著作権法入門第二版』有斐閣、2016年
小川明子『たのしい著作権法』山口TLO 2019年
中山・大淵・小泉・田村『著作権判例百選[第四版]』有斐閣、2009年
小泉・高林・井上・佐藤・駒田・島並・上野『ケースブック知的財産法[第3版]』弘文堂

知的財産法II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1:知的財産とはなにか
- 2:著作権とはなにか
- 3:著作者とは
- 4:著作者人格権
- 5:著作者人格権の例外
- 6: 著作権の概要 1
- 7:著作権の概要 2
- 8:複製権の例外規定
- 9: 著作権の例外規定
- 10:引用と研究倫理
- 11: 著作権保護期間
- 12: 著作隣接権とはなにか
- 13: パブリシティの権利とはなにか 学生による報告 (予備日)
- 14: 学生による報告
- 15: 学生による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点評価:60% 授業への積極的な参加
その他:40% 授業中に行われる発表内容

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

著作権判例に興味を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

著作権法の条文は以下からダウンロード可能である
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=345AC0000000048
上記から条文を入手するか、知的財産法六法の最新刊を入手すること。
条約については以下からダウンロード可能である。
<https://www.cric.or.jp/db/treaty/index.html>

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

著作権法を楽しんで検討していきましょう。

キーワード /Keywords

現代政治論II 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS540S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	現代政治論II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

20世紀は、戦争の世紀と呼ばれるほど、多くの戦争が繰り返され、その戦禍は戦場で戦う兵士のみならず、一般の人々の日常にも広がり、多くの人々の生命・財産を奪った。政治が悲惨な結末を生むとき、その原因として、いかなる論理・思想が存在しているのだろうか。本講義では、第一次世界大戦から全体主義の台頭、第二次世界大戦、原爆投下といった歴史を振り返り、人間の生に深く関わる政治の実態について講義する。

その後、ハンナ・アレント、丸山眞男、マックス・ウェーバー、カール・シュミット、マックス・ホルクハイマー、エーリッヒ・フロム、レオ・シュトラウスといった人物の論述から、20世紀の欧米および日本の政治の背後にある論理・思想を明らかにしていく。

そして、20世紀の政治の負の論理・思想を乗り越える、公共性・古典古代の政治哲学という二つの観点から、対立を超えて、善き政治社会の構築に向かう理論的枠組みと視点について学ぶ。

(到達目標)

【知識・技能】現代政治に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身に付けている。

【問題解決能力・表現力】現代政治に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、プリント資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ハナ・アレント 著、大久保和郎・大島おおり訳『全体主義の起原3 全体主義(新装版)』(みすず書房、1981年)
- 丸山眞男著『現代政治の思想と行動(増補版)』(未来社、1964年)
- マックス・ウェーバー著、脇圭平訳『職業としての政治』(岩波文庫、1980年)
- カール・シュミット著、田中浩・原田武雄訳『政治的なものの概念』(未来社、1970年)
- マックス・ホルクハイマー著、山口祐弘訳『理性の腐蝕』(せりか書房、1987年)
- エーリッヒ・フロム著、日高六郎訳『自由からの逃走(新版)』(東京創元社、1965年)
- レオ・シュトラウス著、塚崎智・石崎嘉彦訳『自然権と歴史』(ちくま学芸文庫、2013年)
- 足立幸男著『政策と価値 現代の政治哲学』(ミネルヴァ書房、1991年)

現代政治論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 20世紀とはどのような世紀であったのか
- 第3回 ヒトラーとナチスドイツ
- 第4回 全体主義の起原 - ハンナ・アレント -
- 第5回 超国家主義の論理と心理 - 丸山眞男 -
- 第6回 職業としての政治 - マックス・ウェーバー -
- 第7回 政治的なものの概念 - カール・シュミット -
- 第8回 理性の腐蝕 - マックス・ホルクハイマー -
- 第9回 自由からの逃走 - エーリッヒ・フロム -
- 第10回 自然権と歴史 - レオ・シュトラウス -
- 第11回 リベラリズムの政治理論
- 第12回 保守主義の政治理論
- 第13回 公共性の政治理論
- 第14回 古典古代の政治哲学と現代
- 第15回 総括 - 善き政治社会の構築に向けて -

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は特に必要としませんが、授業中に課題レポートについてお話ししますので、その課題に沿った学習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で取り上げる歴史および著作について、事前の予備知識や専門知識がなくても受講できるように、初歩から丁寧に授業を行います。

政治学を学ぶ方だけでなく、法律を学ぶ方、政策科学を学ぶ方でもわかりやすく、またそれぞれの学生の研究分野にも活かせる授業を行います。

キーワード /Keywords

20世紀の政治史・戦争と平和・政治哲学

NPO・社会起業論II【昼】

担当者名 /Instructor 雪松 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC570S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	NPO・社会企業論II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

NPOや社会起業が担っている役割は、今までの常識に疑問を持ち、当事者の課題を自身の課題として捉えることから生まれます。「ソーシャル・イノベーション」と呼ばれる大きな変化が社会で起こる背景には、一人の疑問から仲間へ、そして社会と一緒に考えていく地道な作業と経営があります。

本授業では、主に特定非営利活動促進法（NPO法）設計の趣旨背景を読み解くことと、非営利の組織デザインや経営に関するディスカッションを通じて、NPOが現在社会の中でどのような役割を担っているか、またこれから何を期待されているかを、皆さんと一緒に考えます。

また、実際の地域におけるNPOの現場と乖離しない知識や思考を獲得するため、資料からの情報に留まらず、講師が経営するNPO法人アカツキ・またアカツキのコンサルティング支援先であった実際のケースを参考にします。

本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、「NPOの現場と接続した専門知識の獲得」と「NPOの経営課題を俯瞰して構造的に見る力」の2点を重視します。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】NPO・社会起業に関する高度な専門的知識を総合的に有している。

【高い問題解決能力と表現力】NPO・社会起業について、学際的・複眼的に思考し、高い問題解決能力を有するとともに、自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。適宜プリントやスライド投影資料等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

NPO・社会起業論II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション / 基礎的用語や知識の確認
- 2回：行政・企業・NPOの関係性
- 3回：NPO法の立法プロセスが生み出したもの
- 4回：認定NPO法人制度設計・要件・税制上の優遇措置
- 5回：北九州のNPO事例研究発表（1）【福祉】
- 6回：北九州のNPO事例研究発表（2）【まちづくり】
- 7回：北九州のNPO事例研究発表（3）【子ども】
- 8回：行政のNPO支援制度【補助金・情報提供・協働事業】
- 9回：政策提言における権力との距離感
- 10回：NPOでの創業と内部コミュニケーション
- 11回：福岡のNPO経営事例紹介（1）【資金調達】
- 12回：福岡のNPO経営事例紹介（2）【事務整備】
- 13回：福岡のNPO経営事例紹介（3）【事業計画】
- 14回：NPOの成果と評価を取り巻く議論
- 15回：支援と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 日常の授業への取り組み...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習については、事前に指定した資料の該当範囲を読み、必要に応じて発表担当者はシラバスを作成しておいてください。（A4用紙1〜2枚程度）
- ・事後学習については、その日のディスカッションを経て聞いた他の学生や教員の意見を踏まえた上で、自分の考えにどのような変化があったかを再度振り返っておいてください。

履修上の注意 /Remarks

授業ではディスカッションの時間を設けます。ディスカッションに勝ち負けはありません。発言は、「私はこう思う」と自分を主語にし、他者の意見は聞くこと（傾聴）から努めてください。仲間と一緒に考えを作り上げるイメージを持って進めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

市民が動くことから始まった市民立法・議員立法の法律、NPO法が成立して20年が経ちました。制度の内容とこれに尽力した人たちの思いを知り、そこからNPOの役割と身近な政策、行政との関係性を考えることは、NPO法とそれを事業という形で進めていくNPOの秘められた可能性に気づくことになるでしょう。事業や政策の推進側のみならず、政策提言する側の市民や現場の視点を持ち、双方の当事者としてのバランスをどのように取り続けていくのが、NPO経営について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

キーワード /Keywords

NPO法 非営利 社会起業 政策提言 ソーシャル・イノベーション 市民立法 議員立法

法政総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 法学研究科担当教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号・コース		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
LAW580B	研究(法律)		◎	○
	専修(法律)		◎	○
	研究(政策)	◎		○
	専修(政策)	◎		○
科目名	法政総合演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本科目は、法律系・政策系の枠組みを超えて、また研究者コース・専修コースの枠組みを超えて、法学・政策科学の全体を俯瞰する科目です。それによって、自らが専門として研究しようとする分野が、法学全体の中でどのような位置づけとなるのかを把握するために必要となる知識を習得することを目的としています。

オムニバス式の講義に本研究科所属の専任教員の多くが出講することによって、教員と大学院生の交流の接点を作り出すとともに、各担当教員が専門分野に関する現在の状況を学生に提示することで、学生の履修計画、論文執筆、ならびに研究に関連する他分野についての理解を深めることが期待されています。

(到達目標)

< 法学系 >

【高い問題解決能力と表現力】 法学と政策科学上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】 法学と政策科学を研究するために必要な文献を収集する積極的・主体的な行動力を身につけている。

< 政策科学系 >

【高度な専門的知識・技能】 法学と政策科学に関する高度な知識を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】 法学と政策科学を研究するために必要な文献を収集する積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当者のトピックスに応じて、適宜指示します。

法政総合演習 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 憲法学の現在
- 第3回 基礎法学の現在
- 第4回 民法学の現在
- 第5回 商法学の現在
- 第6回 社会学の現在
- 第7回 刑事法学の現在
- 第8回 国際法学の現在
- 第9回 政治研究の現在【実証】
- 第10回 政治研究の現在【規範】
- 第11回 都市政策研究の現在
- 第12回 福祉政策研究の現在
- 第13回 環境政策研究の現在
- 第14回 行政研究の現在
- 第15回 大学院2年生による中間発表会と法政総合演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回の分野の内容について、自ら一定程度の知識を事前に得て予習しておくこと。授業の後は、ノートや配付資料をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自らの研究分野以外の知識も、この講義を通して積極的に吸収してください。各担当教員の専門分野およびそれに関連した参考文献などを自ら進んで調べることにより、より理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

法律文献調査【夜】

担当者名 /Instructor 法律学科教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW581S	研究(法律)	◎		○
	専修(法律)	◎		○
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	法律文献調査	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義では、六法を中心とする法律の各分野に即して、必要となる判例や法律文献や法令等の調査方法について学習する。その際、基本的な分野を広く見渡しながら学習することになる。そのうえで最終的には、基本的には各自が専門とする分野についての判例評釈を書くことになる。

そのために、判例、文献、法令等の引用の仕方などもあわせて学ぶ。法学の全体を幅広く見渡すと同時に、この講義で学んだことを、各人が修士論文や特定課題研究を今後執筆していく上でのスキルとして活用できるようにすることが、本講義の目的とするところである。

- 【高度な専門的知識・技能】法律文献を調べるための高度な知識を身につけている
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】必要な法律文献を収集する積極的・主体的な行動力を身につけている

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文の作成にあたって-盗用・剽窃に対する注意喚起と正しい引用の仕方
- 第3回 法律文献情報の調査法
- 第4回 法令の調査法
- 第5回 図書館データベースを使った判例・文献の調査法
- 第6回 公法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第7回 公法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第8回 刑事法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第9回 刑事法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第10回 民法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第11回 民法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第12回 商法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第13回 社会法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第14回 基礎法領域の(判例・)文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加の態様(熱心さや貢献度など)(50%)、レポート(50%)。レポートは、各自が専門とする分野での判例評釈を基本とする。ただし、専門とする分野によっては教員と相談のうえ、文献レビューでも可。

法律文献調査【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意 /Remarks

- 1 判例や文献の情報検索に際してはパソコンを使用することもあるので、パソコンの基本的な操作方法に関しては、事前に知っておく必要がある。
- 2 各講義回の担当教員の指示に従って、課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文献調査 法令調査、判例調査

憲法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW521S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	憲法BIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

(到達目標)
【高度な専門的知識・技能】憲法に関する高度な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

山本龍彦・横大道聡編著『憲法学の現在地』（日本評論社、2020年）
※受講者によっては変更の可能性もあるため、初回は購入せずに参加して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の目的・概要説明、報告分担決定など)
- 第2回 憲法基礎知識の確認
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論(第1章 国民主権)
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論(第2章 国家目標と国家目標規定)
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論(第3章 立憲主義)
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論(第4章 天皇制)
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論(第5章 明治憲法と日本国憲法)
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論(第6章 憲法改正の限界)
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論(第8章 人権の国際的保障)
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論(第9章 人権保障と制度)
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論(第10章 私人間における権利の保障)
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論(第11章 プライバシー権)
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論(第12章 法の下での平等)
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論(第13章 国家と宗教)
- 第15回 指定テキストの報告及び検討・議論(第14章 表現の自由の原理論)

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

憲法BIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW521S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	憲法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】憲法に関する高度で総合的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

山本龍彦・横大道聡編著『憲法学の現在地』（日本評論社、2020年）

※受講者によっては変更の可能性もあるので、初回は購入せずに参加して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
- 第2回 指定テキストの報告及び検討・議論（第15章 マス・メディアの自由と特権）
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論（第16章 国家助成と自由）
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論（第18章 教育の自由・教育権）
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論（第19章 経済的自由の限界）
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論（第20章 財産権）
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論（第21章 生存権）
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論（第22章 代表概念）
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論（第23章 選挙制度）
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論（第24章 政党の位置づけ）
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論（第25章 議院内閣制）
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論（第28章 内閣と行政各部）
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論（第29章 司法権）
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論（第32章 地方自治）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

憲法BIV 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。
報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW522S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	行政法AIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「行政法総論」分野の諸問題について、判例報告と論文報告を通じて検討します。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】行政法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)
- 第2回 法律による行政の原理(1)【判例報告】
- 第3回 法律による行政の原理(2)【論文報告】
- 第4回 法規命令(1)【判例報告】
- 第5回 法規命令(2)【論文報告】
- 第6回 行政規則(1)【判例報告】
- 第7回 行政規則(2)【論文報告】
- 第8回 行政行為の職権取消し(1)【判例報告】
- 第9回 行政行為の職権取消し(2)【論文報告】
- 第10回 行政裁量(1)【判例報告】
- 第11回 行政裁量(2)【論文報告】
- 第12回 行政上の強制執行(1)【判例報告】
- 第13回 行政上の強制執行(2)【論文報告】
- 第14回 行政手続(1)【判例報告】
- 第15回 行政手続(2)【論文報告】

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

行政法AIII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法AIV【夜】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW522S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	行政法AIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「行政救済法」分野の諸問題について、判例報告と論文報告を通じて検討します。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】行政法に関する高度で総合的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)
 - 第2回 処分性(1)【判例報告】
 - 第3回 処分性(2)【論文報告】
 - 第4回 原告適格(1)【判例報告】
 - 第5回 原告適格(2)【論文報告】
 - 第6回 訴えの利益(1)【判例報告】
 - 第7回 訴えの利益(2)【論文報告】
 - 第8回 差止訴訟(1)【判例報告】
 - 第9回 差止訴訟(2)【論文報告】
 - 第10回 当事者訴訟(1)【判例報告】
 - 第11回 当事者訴訟(2)【論文報告】
 - 第12回 民間委託と国家賠償(1)【判例報告】
 - 第13回 民間委託と国家賠償(2)【論文報告】
 - 第14回 規制権限の不行使(1)【判例報告】
 - 第15回 規制権限の不行使(2)【論文報告】
- ※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

行政法AIV 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法BIII 【夜】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW523S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	行政法BIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法総論を習得済みであることを前提に、行政法総論の基礎（基盤）に関する文献を読むことによって、行政法研究の基礎を形成する。授業では、課題となった文献をまとめて報告してもらうが、その際には、自分なりの言葉で言い換えたり、具体的な事例においてはどのようなことになるかを述べたりしながら行ってもらおう。最終的に、筆者の記述の論理関係を吟味し、判定してもらう。

※到達目標との対応

【高度な専門的知識・技能】行政法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

岡田正則ほか編『現代行政法講座1 現代行政法の基礎理論』（弘文堂、2016）5390円
授業方針の確認の際に対象文献を検討するので、初回出席の際まで購入を待たれたい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

塩野宏『行政法I』（第六版、有斐閣、2015）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、授業方針の確認
- 第2回 報告準備の仕方について（対象文献、白藤博行「法治主義の限界の諸相」）
- 第3回 山本隆司「現代における行政法学の体系」
- 第4回 神橋一彦「憲法と行政法—行政法における基本権「侵害」の意義を中心に」
- 第5回 本多滝夫「行政官僚制と民主主義—政治主導の下での公務員の法令遵守義務」
- 第6回 太田匡彦「行政作用の認識または切り出しについて—現代の行政手法の把握のために」
- 第7回 北村和生「現代における行政責任」
- 第8回 山下竜一「行政法における効率—効率性分析試論」
- 第9回 北村喜宣「行政の実効性確保制度」
- 第10回 榊原秀訓「行政民間化と現代行政法」
- 第11回 米丸恒治「情報化社会における行政法」
- 第12回 斎藤 誠「自治・分権と現代行政法」
- 第13回 山田 洋「現代行政法における協働と参加」
- 第14回 岡田正則「グローバル化と現代行政法」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における取組み 50%
レポート 50%

行政法BIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は報告日前日までに取り扱う文献の骨子をまとめたペーパーを作成すること。
それ以外の者は、対象文献を読んだうえで、脚注等で引用された文献に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法BIV【夜】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW523S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	行政法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政法：公法に関する英語文献を読むことで、行政法に関する広く総合的な視野を持つてもらう。それと同時に、文章の論理関係をきちんと吟味する習慣を身につけることとなる。ゆっくり読むこととなるが、文法把握が出来ているのは前提で行う。

到達目標との関係

【高度な専門的知識・技能】

行政法に関する高度で総合的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

初回に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Questioning the Foundations of Public Law, edited by Michael A. Wilkinson and Michael W. Dowdle (Hart,2018)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 ガイダンス、担当決め
- 第二回 公法の基礎について① 現代国家の登場
- 第三回 公法の基礎について② 公法の継続性とその批判
- 第四回 公法概念について① 公法の自律性？
- 第五回 公法概念について② 司法的転回？
- 第六回 公法に対する規範的批判① 私法に比した強制性について
- 第七回 公法に対する規範的批判② 各論者によるもの
- 第八回 公法に対する実体的批判① 国家の自律性
- 第九回 公法に対する実態的批判② 国家の危機と変容
- 第十回 公法に対する比較法的視点① アメリカ法から
- 第十一回 公法に対する比較法的視点② 英国法から
- 第十二回 行政法の基礎① 行政法の周縁性
- 第十三回 行政法の基礎② 行政法の基礎を求めて
- 第十四回 まとめ1 各文献に対する総括
- 第十五回 まとめ2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み50%
期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

全員が当たるので、文献は事前に読んでおくこと。

行政法BIV 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法AIII【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW560S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法AIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。また、2017年(平成29年)の民法大改正にも留意する必要がある。この分野について、裁判例に留意しながら、考えてゆきたい。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」とすることは、ない。民法総則分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 信義誠実の原則の適用範囲
- 3回 権利の濫用の適用範囲
- 4回 未成年者をめぐる諸問題
- 5回 成年後見をめぐる諸問題
- 6回 物をめぐる諸問題
- 7回 法律行為をめぐる諸問題
- 8回 虚偽表示をめぐる諸問題
- 9回 錯誤をめぐる諸問題
- 10回 詐欺、強迫をめぐる諸問題
- 11回 代理をめぐる諸問題
- 12回 無権代理をめぐる諸問題
- 13回 条件、期限をめぐる諸問題
- 14回 時効をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ... 40 %
 学期末に提出してもらうレポート ... 60 %
 (レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

民法AIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法総則関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、扱われた判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。目安の時間は、事前学習60分、事後学習60分である。

履修上の注意 /Remarks

六法を必ず、持参すること。それなりに調査・研究することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則、民法典、民法改正

民法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW560S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法AIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法の中の債権総論の分野について考える。2017年(平成29年)5月に、民法(債権法)改正が成立した。この改正を理解するためには、まず、改正前の民法の債権法について理解する必要がある。その中でも、債権総論について、裁判例に留意しながら、考えてゆきたい。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度で総合的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。債権総論分野の本であれば、なんでも良い。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 物権と債権の違いをめぐる諸問題
- 3回 種類債権をめぐる諸問題
- 4回 強制履行をめぐる諸問題
- 5回 履行遅滞をめぐる諸問題
- 6回 履行不能をめぐる諸問題
- 7回 不完全履行をめぐる諸問題
- 8回 賠償範囲をめぐる諸問題
- 9回 債権者代位権をめぐる諸問題
- 10回 債権者取消権をめぐる諸問題
- 11回 多数当事者の債権関係をめぐる諸問題
- 12回 債権譲渡をめぐる諸問題
- 13回 弁済をめぐる諸問題
- 14回 相殺をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 40 %

学期末に提出してもらったレポート 60 %

(レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

民法AIV 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、扱われた判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。目安の時間としては、事前学習60分、事後学習60分である。

履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参すること。それなりに調査・研究することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権総論、債権法改正、民法改正

民法BIII 【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW561S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法BIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、債権法（主に契約法）分野に関する最重要判決（判例）の再検討を行う。学部時代、基本書を読んだり、ゼミ（演習）における判例研究報告などで、一度はその判決理由（の一部）を読んだことのあるものばかりであろう。しかし、この授業では、主に「当該判決が公表された当時の学説との関係」および「平成29年民法（債権関係）改正後における当該判決の位置づけ（の変容）」の観点から、より深く、当該最高裁（または大審院）判決を分析していく。学部レベルとは一線を画する質の高い民事判例研究報告・判例評釈執筆を行ってほしい。

※なお、この科目の到達目標は下記の通りである。
DP1 高度な専門的知識・技能：民法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

最新年度の六法（判例付きのものが望ましい。）必携。なお、民法の体系書・基本書等は普段受講院生が使用しているものでよい。新たに購入は不要。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、適宜指導のなかで紹介する予定。

民法BIII【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は、受講院生の研究テーマ、受講院生数などにより、適宜修正される可能性がある。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型指導や対面との複合形態。いわゆる「ハイブリッド型」指導等）に変更となる回が生じる可能性がある。よって、受講院生諸君はmoodleや教員からのメール等でこまめに情報収集・確認に努められたい。

- 第1回：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。
- 第2回：「カフェー丸玉女給事件・再論①（判決理由の分析）」※以下、受講院生と教員との対話形式で分析を行う。
- 第3回：「カフェー丸玉女給事件・再論②（判決当時の学説との関係・改正民法下における本判決の位置づけ）」
- 第4回：「タービンポンプ事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第5回：「タービンポンプ事件・再論②（判決当時の学説との関係・改正民法下における本判決の位置づけ）」
- 第6回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第7回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論②（判決当時の学説との関係・改正民法下における本判決の位置づけ）」
- 第8回：「ブルドーザー事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第9回：「ブルドーザー事件・再論②（判決当時の学説との関係・改正民法下における本判決の位置づけ）」
- 第10回：「大学湯事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第11回：「大学湯事件・再論②（判決当時の学説との関係・改正民法下における本判決の位置づけ）」
- 第12回：「債務の不履行の軽微性と解除；最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁と民法541条ただし書（判決理由の分析と改正民法下における本判決の位置づけの検討）」
- 第13回：改正民法（＝現行民法）541条ただし書についての研究
- 第14回：受講院生による民事判例研究報告（報告45分、質疑・応答45分）
- 第15回：まとめ

※8月初旬（予定）、レポート（6,000字程度 * 字数については、協議の上で変更する場合がある。）を提出すること。内容は、この授業で検討した最高裁判決（ないし大審院判決）を対象とする判例評釈とする。ただし、「大学院レベル」の評釈を求めたいので、学説の配置、判決当時の学説と当該判決（最高裁等が示した規範）との関係の詳細な分析、改正民法（＝現行民法）下における当該判決の位置づけの検討など、多岐に渡る内容を期待したい。なお、執筆要領その他の詳細は、初回授業時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論・対話への積極的参加の度合い.....70%
- ※第14回（予定）で行う判例研究報告の内容.....15%
- ※期末レポート（判例評釈）の内容.....15%
- 【注意】期末レポート（判例評釈）未提出者には、原則として単位を付与しないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】；大審院判決も扱うので、当然、大審院民事判決録、大審院民事判例集をじっくり読み込んで来ることが必要となる。また、各種評釈、調査官解説、および改正民法（＝現行民法）における諸制度についても予習をしてることが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は120分である。
- 【事後学習】；毎授業の終わりに、担当教員から口頭で簡単な課題を提示するので（判決に関連する学説にかかる課題を予定）、それについて復習を兼ねて調べておくように。ペーパーの提出を求める予定である。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

改正民法（＝現行民法）下における上掲判決の位置づけについて研究・分析を進めるので、各自、自主的に改正民法（＝現行民法）の学習を進めておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

戦前の「大審院判例審査会」が当時の民録・民集の「判決要旨」作成に当たって、上記大審院判決の判旨をどのように受け止めていたかといった点まで分析してもらいたい。

キーワード /Keywords

大審院判決、改正民法（＝現行民法）下における判決の位置づけ（の変容）、債権法、契約法・不法行為重要判例

民法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW561S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法（財産法分野）に関する学術論文、なかでも、外国の民法上の諸制度を分析対象とするもの（日本語で書かれた論文を原則とする。）の検討を行う。なお、どの外国法を扱うかは、受講院生との協議で決定する。
学部時代に培った力を総動員し、質の高い研究報告および（期末）レポート執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。
※なお、この科目の到達目標は下記の通りである。
DP1 高度な専門的知識・技能：民法に関する高度で総合的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、各種外国民法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参・使用すること。ただし、最新版（年度）の小型六法は要購入・必携。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※適宜、授業のなかで紹介する。

民法BIV 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は、受講院生の研究テーマ（外国法の希望など）、受講院生数等により、適宜修正される可能性がある。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型指導や対面との複合形態。いわゆる「ハイブリッド型」指導等）に変更となる回が生じる可能性がある。よって、受講院生諸君はmoodleや教員からのメール等でこまめに情報収集・確認に努められたい。

- 第1回：ガイダンス（指導内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。）
 第2回：報告する学術論文（邦語論説）の概要報告（受講生全員）。採り上げる論説等は、各院生の任意とする。ただし、財産法分野に関するものであり、かつ、外国民法を主たる考察対象としている邦語論文を原則とする。この条件を満たすものであれば、論題は問わない。
 第3回：教員による報告と質疑・応答（フランス契約解除法研究）。
 第4回：報告レジュメの作成方法の確認。
 第5回：研究報告（※さしあたり、受講院生2名と想定する。報告者A：1回目）および質疑・応答。
 ※以降のスケジュールは、受講人数により変更される場合がある。
 第6回：報告のつづき（報告者A：2回目）および教員による補論。
 第7回：研究報告（報告者B：1回目）および質疑・応答。
 第8回：報告のつづき（報告者B：2回目）および教員による補論。
 第9回：研究報告（報告者A：3回目）および質疑・応答（※報告2巡目になるので、他の外国法に挑戦すること！）。
 第10回：報告のつづき（報告者A：4回目）および教員による補論。
 第11回：研究報告（報告者B：3回目）および質疑・応答（※報告2巡目になるので、他の外国法に挑戦すること！）。
 第12回：報告のつづき（報告者B：4回目）および教員による補論。
 第13回：期末レポート（荒原稿）報告会（院生A：報告45分、質疑・応答45分を予定）
 第14回：期末レポート（荒原稿）報告会（院生B：報告45分、質疑・応答45分を予定）
 第15回：まとめ（期末レポートの添削指導とする。）

※2022（令和4）年2月初旬、期末レポート（4,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討した外国民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を分析軸とした小考とする。執筆要領その他詳細は、初回指導時に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...80%
 ※期末レポートの内容...20%
 【注意】期末レポート未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】研究報告担当に当たっているときも、そうでないときも、報告対象となる当該外国民法上の制度概要について、種々の文献等を読み、理解を深めていくことが求められる。この予習に必要な学習時間の目安は120分である。
 【事後学習】毎授業の終わりに、担当教員から口頭で簡単な課題を提示するので（当該外国民法上の制度に対応する日本民法上の制度に関する課題を予定）、それに付き復習を兼ねて調べておくように。ペーパーの提出を求める予定である。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

外国民法上の制度を調べることは、意外に骨が折れる作業である。当該外国民法に関心がないと生産的な指導・研究にならない。事前に参考文献に目を通すなどのことはしておいてもらいたい。2か国以上の外国民法に関心をもって授業に臨まれたい。また、可能であれば、原著を講読してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国民法に関心を持とう！英・米・独・仏以外の国の民法にも関心を持とう！

キーワード /Keywords

外国民法研究（邦語論文レビュー）、2か国以上の外国民法に触れる、フランス契約解除法、英米法、ドイツ法、フランス法、東欧やロシアの民法、アジア諸国の民法

民法CIII 【夜】

担当者名 /Instructor 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW562S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法CIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、平成29年の民法（債権法）改正において、中間試案では提案されていたものの条文に結実しなかった部分について検討を加える。なお、この授業の対象範囲は民法総則の分野とする。条文として結実しなかったということは賛否があるということであり、大学院生が研究の種を見つけるのには格好の素材を提供しているといえよう。これらの検討を通じて議論や説得の方法についての理解を深め、より説得的な議論ができるようになることを期待する。

授業は、学生による報告を中心として、適宜、教員・出席者からの質問やコメントをする形で進めていくことを予定している。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定はしないが、「民法（債権関係）の改正に関する中間試案（概要付き）」を用意する必要がある。インターネットからダウンロードするか、雑誌媒体として購入する方法がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定するが、民法（債権関係）部会資料を確認することは必須である。インターネット上で確認するか、紙媒体で確認する方法がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法律行為の意義
- 第3回 暴利行為
- 第4回 意思能力の定義
- 第5回 代理人又は媒介者の詐欺
- 第6回 意思表示の到達の定義
- 第7回 代理人が自らを本人であると称した場合の代理行為の効果
- 第8回 代理行為の瑕疵（本人が過失によって知らなかった事情）
- 第9回 代理人の権限
- 第10回 代理権の濫用
- 第11回 代理人が自らを本人であると称して権限外の行為をした場合
- 第12回 処分授權
- 第13回 一部無効
- 第14回 法定追認事由の追加
- 第15回 取消権の行使期間

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容や質問・コメントの内容の評価が50%、レポートの評価が50%

民法CIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告や質問によって授業の進み方が左右されるので、事前学習に力を入れて欲しい。
事前学習としては、中間試案の概説を読むことはもちろんのこと、中間試案公表後の民法（債権関係）部会でどのような議論が行われたのかを確認してほしい。
事後学習としては、条文として結実しなかった1番の理由は何かを考え、条文としなかったことについての私見をまとめることを求める。

履修上の注意 /Remarks

参照すべき資料が多くなることが予想されるので、資料の閲覧方法や管理方法を工夫すること。ノート型パソコンやタブレットなどを授業に持参しても構わない。むしろ、持参することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

手掛かりとなる文献や先行研究が多くはないので、ある意味で意欲的な授業である。そのため、自分で資料を調べ、整理して考えることが求められる。負荷が高くなることが予想されるので、こころして履修をしてほしい。

キーワード /Keywords

民法総則、民法改正、中間試案

民法CIV 【夜】

担当者名 /Instructor 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW562S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法CIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、平成29年の民法（債権法）改正において、中間試案では提案されていたものの条文に結実しなかった部分について検討を加える。なお、この授業での対象範囲は債権総論の分野とする。条文として結実しなかったということは賛否があるということであり、大学院生が研究の種を見つけるには格好の素材を提供しているといえよう。これらの検討を通じて議論や説得の方法についての理解を深め、より説得的な議論ができるようになることを期待する。

授業は、学生による報告を中心として、適宜、教員・出席者からの質問やコメントをする形で進めていくことを予定している。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度で総合的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定はしないが、「民法（債権関係）の改正に関する中間試案（概要付き）」を用意する必要がある。インターネットからダウンロードするか、雑誌媒体として購入する方法がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定するが、民法（債権関係）部会資料を確認することは必須である。インターネット上で確認するか、紙媒体で確認する方法がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 外国通貨債権
- 第3回 選択債権
- 第4回 債権の請求力
- 第5回 契約による債務の不履行における損害賠償の範囲
- 第6回 損益相殺
- 第7回 債権者代位権（事実上の優先弁済効の否定）
- 第8回 債権者代位権の行使に必要な費用
- 第9回 債権者代位権の転用（一般規定）
- 第10回 詐害行為取消権（事実上の優先弁済効の否定）
- 第11回 連帯債務（求償において自己の負担部分を超えることの要否）
- 第12回 連帯の免除をした場合の債権者の負担
- 第13回 債権譲渡の対抗要件
- 第14回 契約上の地位の移転
- 第15回 弁済の意義

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容や質問・コメントの内容の評価が50%、レポートの評価が50%

民法CIV【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告や質問によって授業の進み方が左右されるので、事前学習に力を入れて欲しい。
事前学習としては、中間試案の概説を読むことはもちろんのこと、中間試案公表後の民法（債権関係）部会でどのような議論が行われたのかを確認してほしい。
事後学習としては、条文として結実しなかった1番の理由は何かを考え、条文としなかったことについての私見をまとめることを求める。

履修上の注意 /Remarks

参照すべき資料が多くなることが予想されるので、資料の閲覧方法や管理方法を工夫すること。ノート型パソコンやタブレットなどを授業に持参しても構わない。むしろ、持参することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

手掛かりとなる文献や先行研究が多くはないので、ある意味で意欲的な授業である。そのため、自分で資料を調べ、整理して考えることが求められる。負荷が高くなることが予想されるので、こころして履修をしてほしい。

キーワード /Keywords

債権総論、民法改正、中間試案

民法DIII 【夜】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW563S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法DIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

担保物権法（特に動産担保）に関するドイツ語の文献を読むことを通して、今後の研究に必要なドイツ語の法律文献を理解する力を養成するとともに、日本法とドイツ法の違いについて理解を深める。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

Weber/Weber, Kreditsicherungsrecht, 10. Auflage 2018 (C.H.Beck) 4,154円 (Amazonにおける令和3年1月現在の価格)
* 為替相場の変動等により、価格が変更される場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ヘルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典〔第2版〕』（成文堂、平成22年）本体8,000円＋税
山田晟『ドイツ法律用語辞典〔改訂増補版〕』（大学書林、平成5年）本体30,000円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Einleitung (SS. 1-4)
- 第3回 Allgemeines I, II (SS. 4-8)
- 第4回 Allgemeines III (SS. 8-12)
- 第5回 Allgemeines IV (SS. 13-18)
- 第6回 Allgemeines V (SS. 18-29)
- 第7回 Allgemeines V (SS. 30-34)
- 第8回 Allgemeines V (SS. 34-40)
- 第9回 Das Pfandrecht I (SS. 111-114)
- 第10回 Das Pfandrecht II (SS. 114-118)
- 第11回 Das Pfandrecht II (SS. 118-122)
- 第12回 Das Pfandrecht III (SS. 122-126)
- 第13回 Das Pfandrecht IV, V (SS. 126-128)
- 第14回 Besondere Pfandrechtsformen (SS. 129-132)
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%，期末レポート...50%

民法DIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で取り扱う部分について、必ず事前に和訳をして授業で発表することができるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語の基礎的な文法知識があることを前提に授業を進める。
この授業においてドイツ語の文法等の解説を行う予定はないので、十分に注意すること。
また、授業内容を理解するためには、担保物権法（特に動産担保）に関する日本法の知識も必要不可欠である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高度な内容の授業となることを覚悟した上で受講すること。

キーワード /Keywords

担保物権法 ドイツ法 動産担保

民法DIV 【夜】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW563S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民法DIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、担保物権法（特に不動産担保）に関するドイツ語の文献を読むことを通して、今後の研究に必要なドイツ語の法律文献を理解する力を養成するとともに、日本法とドイツ法の違いについて理解を深める。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度で総合的な知識を身につけている

教科書 /Textbooks

Weber/Weber, Kreditsicherungsrecht, 10. Auflage 2018 (C.H.Beck) 4,154円 (Amazonにおける令和3年1月現在の価格)

* 為替相場の変動等により、価格が変更される場合がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ヘルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典〔第2版〕』（成文堂、平成22年）本体8,000円＋税

山田晟『ドイツ法律用語辞典〔改訂増補版〕』（大学書林、平成5年）本体30,000円＋税○

このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Sicherungsübereignung I (SS. 132-134)
- 第3回 Sicherungsübereignung II (SS. 134-139)
- 第4回 Sicherungsübereignung III, IV (SS. 139-142)
- 第5回 Sicherungsübereignung V (SS. 142-147)
- 第6回 Sicherungsübereignung VI, VII (SS. 147-151)
- 第7回 Der einfache Eigentumsvorbehalt I (SS. 151-156)
- 第8回 Der einfache Eigentumsvorbehalt II, III (SS. 156-159)
- 第9回 Der einfache Eigentumsvorbehalt IV (SS. 159-162)
- 第10回 Der einfache Eigentumsvorbehalt V, VI (SS. 162-166)
- 第11回 Der einfache Eigentumsvorbehalt VII (SS. 166-168)
- 第12回 Sonderformen des Eigentumsvorbehalts I (SS. 168-170)
- 第13回 Sonderformen des Eigentumsvorbehalts II (SS. 170-174)
- 第14回 Sonderformen des Eigentumsvorbehalts III, IV, V (SS. 174-175)
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%，期末レポート...50%

民法DIV 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で取り扱う部分について、必ず事前に和訳をして授業で発表することができるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語の基礎的な文法知識があることを前提に授業を進める。
この授業においてドイツ語の文法等の解説を行う予定はないので、十分に注意すること。
また、授業内容を理解するためには、担保物権法（特に動産担保）に関する日本法の知識も必要不可欠である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高度な内容の授業となることを覚悟した上で受講すること。

キーワード /Keywords

担保物権法 ドイツ法 動産担保

商法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW570S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	商法AIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。
受講者の興味関心に従ってケース選定を行います。

到達目標

【高度な専門知識・技能】商法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

商法AIII 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・ゼミの運営方針の説明。
興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたり受講者各自の問題意識を確認・明確化する。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。
1) 裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、
2) 資料全文現物入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)をお互いに公表し、報告順番を決定する。

★★以下は、あくまで例示に過ぎません。受講者の興味関心に従ってテーマは決定します★★

- 第5回 ビッグデータ活用産業の現状と課題について考える
第6回 顧客の個人情報漏洩問題について考える
第7回 銀行取引に関する事例研究
第8回 銀行融資に関する事例研究
第9回 証券取引に関する事例研究
第10回 これまでのまとめ
第11回 証券会社の経営に関する事例研究
第12回 金融商品販売と消費者保護に関する事例研究
第13回 保険取引に関する事例研究
第14回 保険会社の健全な経営に関する事例研究
第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくこと
授業後には議論を振り返り、さらに補充・再読すべき文献の収集や読み込みに積極的に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

報告レジュメに関してはできるだけ事前にMoodle上にアップロードできるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ビッグデータ】【情報産業と法】【金融商品の販売】

商法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW570S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	商法AIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、企業取引で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。詳しくは、授業計画の項を参照ください。

到達目標

【高度な専門知識・技能】商法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

商法AIV 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス・ゼミの運営方針の説明。
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
- 第02回 興味のあるテーマに関わる資料（裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など）を検索してみる
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第03回 複数の報告候補テーマを紹介し合う。
テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲（射程距離）などについて、意見交換を行う。
- 第04回 各自が取り組むテーマ（後からの変更もOK）を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。

★★以下は、あくまで例示であって、具体的内容は、受講者の興味関心に従います★★

- 第05回 報告と討論 例：営業秘密と不正競争に関わる法律問題
- 第06回 報告と討論 例：秘密保持契約をめぐる法律問題
- 第07回 報告と討論 例：インターネット取引業者・プロバイダーをめぐる法律問題
- 第08回 報告と討論 例：フランチャイズ契約をめぐる法律問題
- 第09回 報告と討論 例：旅客運送業者の法的責任
- 第10回 報告と討論 例：物品運送業者の法的責任
- 第11回 報告と討論 例：ホテル経営者の法的責任
- 第12回 報告と討論 例：旅行業者の法的責任
- 第13回 報告と討論 例：戦争・テロ・災害リスクと法
- 第14回 報告と討論 例：遺伝子情報取引と法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%（出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なリサーチが求められます。
特に、次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくことが重要です。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前にMoodle上にアップできるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【銀行取引約定書】 【否認】 【フランチャイズシステムと法】

商法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW571S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	商法BIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

主に会社法に関する裁判例の分析を通じて、会社法の重要論点を検討します。この授業では株式会社の機関の問題を中心に扱います。

(到達目標)
【高度な専門知識・技能】商法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考となる文献については適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株主の権利(1)【株主の議決権】
- 3回 株主の権利(2)【利益供与】
- 4回 株式会社の機関総論
- 5回 株主総会(1)【株主提案権】【委任状の勧誘】
- 6回 株主総会(2)【決議の瑕疵】
- 7回 株式会社の業務執行
- 8回 株式会社の監査・監督
- 9回 取締役の義務
- 10回 役員報酬
- 11回 取締役の責任(1)【会社に対する責任】
- 12回 取締役の責任(2)【株主代表訴訟】
- 13回 取締役の責任(3)【第三者に対する責任】
- 14回 親子会社
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

商法BIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW571S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	商法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

主に会社法に関する裁判例の分析を通じて、会社法の重要論点を検討します。この授業では資金調達・M&A関係の問題を扱います。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】商法に関する高度で総合的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考となる文献等については授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社のファイナンスの概要
- 3回 株式の発行(1) 【有利発行】
- 4回 株式の発行(2) 【不正発行】
- 5回 株式の発行(3) 【新株発行の無効】
- 6回 株式の譲渡
- 7回 自己株式
- 8回 新株予約権
- 9回 組織再編・M&A(1) 【合併】
- 10回 組織再編・M&A(2) 【株式交換】 【株式移転】
- 11回 組織再編・M&A(3) 【株式買取請求権】
- 12回 組織再編・M&A(4) 【会社分割】
- 13回 組織再編・M&A(5) 【敵対的買収】
- 14回 非公開化取引
- 15回 まとめ

商法BIV【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への寄与度...50%、レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 齋藤 友美子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW564S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民事訴訟法AIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、全員で討論をする。報告のテーマについては、受講生と相談の上、決定する。

(到達目標)

【知識・技能】民事訴訟法に関する高度な知識を身につけている

【問題解決能力・表現力】民事訴訟法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている

教科書 /Textbooks

高橋宏志『重点講義民事訴訟法(上)(第2版補訂版)』(有斐閣、2013)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義(第3版)』(有斐閣、2018)

伊藤眞『民事訴訟法(第6版)』(有斐閣、2018)

松本博之・上野泰男『民事訴訟法(第8版)』(弘文堂、2015)

高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選(第5版)』(有斐閣、2015)

民事訴訟法AIII 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 民事訴訟の目的
- 3回 訴訟物
- 4回 訴え
- 5回 一部請求
- 6回 重複訴訟の禁止
- 7回 当事者の確定
- 8回 審判権の限界
- 9回 訴えの利益
- 10回 弁論主義
- 11回 自白
- 12回 証明責任
- 13回 既判力
- 14回 反射効
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(50%)、出席態度(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者はテーマについて、判例・学説を収集・分析し、私見をまとめる。
報告者はレジユメを作成する。
報告者以外の者もテーマについて、事前学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数の授業ですので、積極的に発言してください。
また、報告者は特に十分な準備を行ってください。

キーワード /Keywords

民事訴訟法AIV 【夜】

担当者名 齋藤 友美子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW564S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民事訴訟法AIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、全員で討論をする。報告のテーマについては、受講生と相談の上、決定する。

(到達目標)

【知識・技能】民事訴訟法に関する高度で総合的な知識を身につけている

【問題解決能力・表現力】民事訴訟法上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている

教科書 /Textbooks

高橋宏志『重点講義民事訴訟法(下)(第2版補訂版)』(有斐閣、2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義(第3版)』(有斐閣、2018)

伊藤真『民事訴訟法(第6版)』(有斐閣、2018)

松本博之・上野泰男『民事訴訟法(第8版)』(弘文堂、2015)

高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選(第5版)』(有斐閣、2015)

民事訴訟法AIV 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 訴訟上の和解
- 3回 訴訟要件
- 4回 証拠調べ
- 5回 処分権主義
- 6回 共同訴訟
- 7回 主観的予備的併合
- 8回 選定当事者
- 9回 補助参加
- 10回 独立当事者参加
- 11回 訴訟承継
- 12回 控訴
- 13回 上告
- 14回 再審
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(50%)、出席態度(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者はテーマについて、判例・学説を収集・分析し、私見をまとめる。
報告者はレジユメを作成する。
報告者以外の者もテーマについて、事前学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数の授業ですので、積極的に発言してください。
また、報告者は特に十分な準備を行ってください。

キーワード /Keywords

民事訴訟法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 渡邊 典子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW565S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民事訴訟法BIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

(授業の概要)

この講義では、どのようにして権利を実現したり、保全したりするのか、民事執行法及び民事保全法の制度を学び、書式を参照しながら実践的な思考を学んでいただくことを目標にしています。

(到達目標)

民事訴訟法に関する高度な知識を身につけている
民事訴訟法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている

教科書 /Textbooks

「実践民事執行法民事保全法」第3版 平野哲郎著 日本評論社 2020年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1民事執行・民事保全の概要
- 2民事執行の基礎
- 3民事執行の種類・態様、執行手続の主体
- 4強制執行の要件
- 5強制執行の要件
- 6強制執行手続開始の要件、執行手続の停止・取消し・終了、執行手続上の不服申立て手段
- 7執行対象財産
- 8不動産の強制競売
- 9不動産の強制競売
- 10不動産の強制競売
- 11不動産の強制競売
- 12不動産の強制競売
- 13不動産の強制競売
- 14不動産の強制競売
- 15担保権実行としての不動産競売、強制管理・担保不動産収益執行

成績評価の方法 /Assessment Method

課題20% 日常の授業への取り組み30% レポート50%

民事訴訟法BIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題を課すことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

弁護士として実務の経験もお話したいと思います。

キーワード /Keywords

民事訴訟法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 渡邊 典子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW565S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	民事訴訟法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

(授業の概要)

この講義では、どのようにして権利を実現したり、保全したりするのか、民事執行法及び民事保全法の制度を学び、事例や書式を通して実践的な思考を学んでいただくことを目標にしています。

(到達目標)

民事訴訟法に関する高度で総合的な知識を身につけている
民事訴訟法上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている

教科書 /Textbooks

「実践民事執行法民事保全法」第3版 平野哲郎著 日本評論社 2020年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1民事執行の全体像、動産に対する民事執行
- 2動産に対する民事執行
- 3金銭債権に対する民事執行
- 4金銭債権に対する民事執行
- 5金銭債権に対する民事執行
- 6動産の引渡請求権に対する強制執行、その他の財産権に対する民事執行
- 7非金銭執行
- 8非金銭執行
- 9間接強制と権利の濫用
- 10債務者の財産状況の調査
- 11民事保全
- 12民事保全
- 13民事保全
- 14民事保全の不服申立手続
- 15民事執行の国際比較と将来の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

課題30% 日常の授業への取り組み30% レポート40%

民事訴訟法BIV 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題を課すことがあります

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

弁護士として、実務の経験もお話したいと思います。

キーワード /Keywords

刑法AIII【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW530S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑法AIII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的な体系書を精読して、犯罪論の体系的な理解を再確認し、併せて刑法の理論的な分析の方法を習得することを目指します。授業は、指定した教科書の該当箇所について、報告者がその内容をまとめて報告し、それに対して他の受講生と教員が質問する形で進めます。

(到達目標)

【専門的知識・技能】刑法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

大谷實『刑法講義総論 [新版第5版]』(成文堂、2019年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法総論の理論構造』(成文堂、2005年)
 - 前田雅英『刑法総論講義 [第7版]』(東京大学出版会、2019年)
 - 大塚裕史ほか『基本刑法I総論 [第3版]』(日本評論社、2019年)
- この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明)
- 第2回 文献の調べ方、報告の方法、犯罪論体系の概説
- 第3回 犯罪論の体系①【受講者による報告・議論】
- 第4回 犯罪論の体系②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第5回 違法性の概念①【受講者による報告・議論】
- 第6回 違法性の概念②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第7回 因果関係論①【受講者による報告・議論】
- 第8回 因果関係論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第9回 故意論・錯誤論①【受講者による報告・議論】
- 第10回 故意論・錯誤論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第11回 正当防衛①【受講者による報告・議論】
- 第12回 正当防衛②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第13回 責任能力と原因において自由な行為①【受講者による報告・議論】
- 第14回 責任能力と原因において自由な行為②【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第15回 演習全体の総括

※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料と報告内容、演習中の積極的な発言(50%)、並びに期末レポート(50%)を総合的に評価します。

刑法AIII 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 指定テキストの該当箇所を読んで、筆者の説明の要点をまとめるとともに、不明な点と疑問がある点を明らかにしておいて下さい。
(事後学習) 演習後は、当日の議論の中で提起された問題点について再度検討して下さい。その際には、上記の参考書と指定テキストで示された参考文献の該当箇所と比較しながら考えるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用して資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードしてもらうことになります。
基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、一定量のテキストを自ら精読してくることが求められますが、自分の頭でしっかりと内容を吟味しながら丁寧に読み進めることが肝要です。

キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 犯罪論体系

刑法AIV【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW530S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑法AIV	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

刑法の主要なテーマに関する基本判例を分析し、刑法判例の現在地を確認するとともに、判例の理論的な分析の方法を習得することを目指します。授業は、対象となる判例とその解説について、担当者がまとめて報告し、それに対してその他の受講者と教員が質問を加える形で進めます。学期末には、報告を担当した項目について、レポートを提出してもらいます。

(到達目標)

【専門的知識・技能】刑法に関する高度で総合的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選I総論 [第8版]』、『刑法判例百選II各論 [第8版]』(有斐閣、2020年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 中野次雄『判例とその読み方 [3訂版]』(有斐閣、2009年)
 - 井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス [第2版]』(商事法務、2019年)
 - 井田良・城下裕二編『刑法各論判例インデックス』(商事法務、2016年)
 - 山口厚『基本判例に学ぶ刑法総論』(成文堂、2010年)、『基本判例に学ぶ刑法各論』(成文堂、2011年)
- この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明)
- 第2回 判決の基本的な構造と判例の読み方・分析の仕方
- 第3回 因果関係①【受講者による報告・議論】
- 第4回 因果関係②【下級審および関連判例の報告・議論】
- 第5回 因果関係③【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第6回 正当防衛①【受講者による報告・議論】
- 第7回 正当防衛②【下級審および関連判例の報告・議論】
- 第8回 正当防衛③【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第9回 窃盗罪①【受講者による報告・議論】
- 第10回 窃盗罪②【下級審および関連判例の報告・議論】
- 第11回 窃盗罪③【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第12回 横領罪①【受講者による報告・議論】
- 第13回 横領罪②【下級審および関連判例の報告・議論】
- 第14回 横領罪③【議論で上がった質問に対する追加報告】
- 第15回 演習全体の総括

※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

刑法AIV 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料と報告内容、演習中の積極的な発言(50%)、並びに期末レポート(50%)を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 課題となる判例の内容を上告趣意まで含めて精読し、要点をまとめるようにして下さい。その上で、指定テキストの解説を読んで、不明な点や疑問がある点を確認しておいて下さい。

(事後学習) 演習後は、当日の議論の中で提起された問題点について再度検討して下さい。その際には、調査官解説と上記の参考文献の解説を丁寧に読んで理解するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメ、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードしてもらうことになります。

基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭においていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

判例で示された法解釈は、それを支持するのか批判するのかに拘らず、研究の出発点になります。判決文の構造を理解した上で、判決文の内容を丁寧に読み解き、その意義と射程を正確に理解できるよう訓練しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 刑法各論

刑法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW531S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑法BIII	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

修士論文を執筆するための基礎的な研究を進める。受講者が選定したテーマ（課題）についての日本法と外国法の理論状況を考察する。各テキストの論文テーマに該当する箇所を精読して、摘要をまとめる。
(到達目標)
【高度な専門的知識・技能】刑法に関する高度な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況および理論状況を明らかにする。詳細は受講生と相談して決定する。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 論文テーマの検討
- 3回 問題の所在の検討
- 4回 参考文献の整理と検討
- 5回 基本書の購読と摘要の検討(日本の学説)
- 6回 基本書の購読と摘要の検討(日本の判例)
- 7回 コメントールの購読と摘要の検討(日本の学説)
- 8回 コメントールの購読と摘要の検討(日本の判例)
- 9回 基本書の購読と摘要の検討(外国法の学説)
- 10回 基本書の購読と摘要の検討(外国法の判例)
- 11回 コメントールの購読と摘要の検討(外国法の学説)
- 12回 コメントールの購読と摘要の検討(外国法の判例)
- 13回 日本と外国法の学説の概要
- 14回 日本と外国法の裁判例の概要
- 15回 最終レポートの提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジユメを含む) ... 50% 討論および発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討しうえて摘要を再作成しなさい。

刑法BIII 【夜】

履修上の注意 /Remarks

刑法（刑法総論および刑法各論）をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW531S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑法BIV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

これまでの日本の法理論の理解、外国法の理論の理解をもとにして、受講者が選定したテーマ（課題）について、日本および諸外国の法理論と対比しながら、自己の見解をまとめ、論証する。修士論文を執筆することを目的とする。
(到達目標)
【高度な専門的知識・技能】刑法に関する高度で総合的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各回の課題についてレポートを作成し、事前に提出する。詳細は受講生と相談して決定する。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 自説の提立と論証の批判的検討
- 3回 日本の判例の検討
- 4回 日本の下級審裁判例の検討
- 5回 日本の判例理論の整理
- 6回 日本の学説の検討(通説について)
- 7回 日本の学説の検討(反対説について)
- 8回 論文テーマの中間報告
- 9回 外国裁判例の比較法的検討
- 10回 外国法における学説の検討
- 11回 日本法理論と自己の見解の対比的検討
- 12回 外国法理論と自己の見解の対比的検討
- 13回 草稿の提出と批判的検討
- 14回 修正箇所を検討
- 15回 最終論文の提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む) ... 50% 討論および発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討しうえて摘要を再作成しなさい。

刑法BIV 【夜】

履修上の注意 /Remarks

刑法（刑法総論および刑法各論）をひと通り学んでいること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW532S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑事訴訟法Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

高度な専門的知識・技能：刑事訴訟法に関する高度な知識を身につけている。
高い問題解決能力と表現力：刑事訴訟法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第9版〕」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
 - 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
 - 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
 - 第4回 捜査総説
 - 第5回 令状主義と強制処分法定主義
 - 第6回 捜査の端緒
 - 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
 - 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
 - 第9回 逮捕
 - 第10回 無令状捜索・差押
 - 第11回 勾留
 - 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
 - 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
 - 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
 - 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ
- ※受講者の興味関心によって、講義内容は変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み、議論への参加状況(100%)

刑事訴訟法Ⅲ【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW532S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑事訴訟法Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

高度な専門的知識・技能：刑事訴訟法に関する高度な知識を身につけている。
高い問題解決能力と表現力：刑事訴訟法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第9版）」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起 (起訴便宜主義、起訴状一本主義)
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備 (公判前整理手続、証拠開示)
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

※受講者の興味関心によって、講義内容が変更となることがあります。

刑事訴訟法Ⅳ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み、議論への参加状況(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学Ⅲ【夜】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW533S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑事学Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業は、研究者として、刑事政策に関する専門的知識を身に付けることを目的とする。まずは、刑事政策に関する基礎的な知識を習得し、その上で、近年、目まぐるしく変化している刑事政策の動向を押さえる。授業の進め方としては、受講生が報告し、皆で討論を行う。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】 刑事学に関する高度な知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】 刑事学上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の授業の際に相談して決めたいと思う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和2年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社(2020年)。

刑事学III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 授業は以下の計画で進める予定であるが、受講者数あるいは受講生の関心によっては、内容を変更する場合もある。詳細については、初回の授業の際に、受講生と相談して決定する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 刑事司法制度の概要
- 第3回 犯罪の動向
- 第4回 犯罪者の処遇①検察・裁判段階
- 第5回 犯罪者の処遇②施設内処遇（成人矯正）
- 第6回 犯罪者の処遇③施設内処遇（成人矯正）
- 第7回 犯罪者の処遇④社会内処遇（更生保護）
- 第8回 犯罪者の処遇⑤社会内処遇（更生保護）
- 第9回 非行少年の動向
- 第10回 非行少年の処遇①
- 第11回 非行少年の処遇②
- 第12回 高齢犯罪者の動向
- 第13回 高齢犯罪者の処遇①
- 第14回 高齢犯罪者の処遇②
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

刑事学IIIと刑事学IVは、内容がリンクしているため、基本的には、両方受講することが望ましい。

また、刑事司法政策及び犯罪学を受講していない者は、事前に刑事政策及び犯罪学の文献に目を通した上で受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

罪を犯した高齢者や障害者の処遇をどうするのかという司法と福祉の連携に関する問題や、少年法の適用年齢の引き下げ及び刑務所処遇の問題等刑事政策の新動向について学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策、犯罪学

刑事学Ⅳ【夜】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW533S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	刑事学Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業は、研究者として、刑事政策に関する専門的知識を身に付けることを目的とする。本授業では、刑事政策の各論部分を扱うため、刑事学Ⅲで学んだ知識を基に、受講生がテーマを選定し、報告を行う。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】 刑事学に関する高度で総合的な知識を身につけている。
- 【高い問題解決能力と表現力】 刑事学上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の授業の際に相談して決めたいと思う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和2年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社(2020年)。

刑事学Ⅳ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 授業は以下の計画で進める予定であるが、受講者数あるいは受講生の関心によっては、内容を変更する場合もある。詳細については、初回の授業の際に、受講生と相談して決定する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 薬物犯罪
- 第3回 児童虐待・配偶者暴力・ストーカー犯罪
- 第4回 女性犯罪
- 第5回 精神障害者による犯罪
- 第6回 外国人犯罪
- 第7回 サイバー犯罪
- 第8回 組織的犯罪
- 第9回 交通犯罪
- 第10回 再犯・再非行
- 第11回 犯罪被害者
- 第12回 刑事政策の諸課題(1)
- 第13回 刑事政策の諸課題(2)
- 第14回 刑事政策の諸課題(3)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

刑事法Ⅲと刑事法Ⅳは、内容がリンクしているため、基本的には、両方受講することが望ましい。

また、刑事司法政策及び犯罪学を受講していない者は、事前に刑事政策及び犯罪学の文献に目を通した上で受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回テーマが異なる以上、膨大な文献を読む必要があるため、意欲のある学生のみ受講して下さい。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策、犯罪学

労働法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW540S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	労働法Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

労働法分野の諸問題について、判例研究や文献講読を通じて多角的に分析し、理解を深めることを目的とします。各自が関心のあるテーマを選択し、関連する判例や文献についてまとめ、報告し、議論を行います。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】労働法に関する高度な知識を身につけている

【高い問題解決能力と表現力】労働法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※具体的な進め方や内容は、受講者と相談のうえ、決定します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定、判例や文献の選択
- 第3回 テーマ①(労働契約法領域)に関する判例の検討
- 第4回 テーマ①に関する文献講読
- 第5回 テーマ①に関する各論点の分析
- 第6回 テーマ①に関するまとめと次回の判例・文献の選択
- 第7回 テーマ②(労働保護法領域)に関する判例の検討
- 第8回 テーマ②に関する文献講読
- 第9回 テーマ②に関する各論点の分析
- 第10回 テーマ②に関するまとめと次回の判例・文献の選択
- 第11回 テーマ③(労使関係法領域)に関する判例の検討
- 第12回 テーマ③に関する文献講読
- 第13回 テーマ③に関する各論点の分析
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

労働法III 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は、事前にレジユメを作成すること。
報告担当者以外も、事前に資料を読み、議論に参加できるよう準備しておくこと。
授業後には、論点をまとめ、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW540S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	労働法Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

労働法分野の諸問題について、判例研究や文献講読を通じて多角的に分析し、理解を深めることを目的とします。各自が関心のあるテーマを選択し、関連する判例や文献についてまとめ、報告し、議論を行います。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】労働法に関する高度で総合的な知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】労働法上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※具体的な進め方や内容は、受講者と相談のうえ、決定します。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定、判例や文献の選択
- 第3回 テーマ①(労働安全衛生領域)に関する判例の検討
- 第4回 テーマ①に関する文献講読
- 第5回 テーマ①に関する各論点の分析
- 第6回 テーマ①に関するまとめと次回の判例・文献の選択
- 第7回 テーマ②(雇用平等領域)に関する判例の検討
- 第8回 テーマ②に関する文献講読
- 第9回 テーマ②に関する各論点の分析
- 第10回 テーマ②に関するまとめと次回の判例・文献の選択
- 第11回 テーマ③(労働市場法領域)に関する判例の検討
- 第12回 テーマ③に関する文献講読
- 第13回 テーマ③に関する各論点の分析
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

労働法Ⅳ【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は、事前にレジユメを作成すること。
報告担当者以外も、事前に資料を読み、議論に参加できるよう準備しておくこと。
授業後には、論点をまとめ、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW541S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	社会保障法Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】社会保障法に関する高度な知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】社会保障法上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①(年金領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)～各論点に関する分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)～他の視点の提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②(生活保護領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③(労働保険領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

社会保障法Ⅲ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立てる。

履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

社会保障法Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW541S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	社会保障法Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】社会保障法に関する高度で総合的な知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】社会保障法上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている

教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマ・文献の選択
- 第3回 テーマ①(高齢者福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第7回 テーマ②(障がい者福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第11回 テーマ③(児童福祉領域)に関する文献の講読・討論(1)～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論(2)～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論(3)～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 総まとめ

社会保障法Ⅳ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立てる。

履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

国際法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW550S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	国際法Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。国際法Iでは、表現の自由が絡んだケースに焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

到達目標は、
 国際人権法に関する専門知識を習得するとともに、国際人権保障システムの現状と課題について説明することができる、
 裁判の中で、国際的な人権基準が具体的にどのように扱われてきているか、説明することができる、
 日本の国内法体系において、表現の自由の保障がどのようなものとなっているか、国際基準による保障との異同も含め、説明することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○
 芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

国際法III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法, 研究対象判例の選定
- 第3回 国連と人権の国際的保障枠組み
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動 (UPR, Treaty Bodyにおける報告制度等)】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用: 自動執行力】
- 第7回 判例研究I① (精読: 事実関係の明確化)
- 第8回 判例研究I② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第9回 判例研究I③ (報告担当者による判例報告)
- 第10回 判例研究II① (精読: 事実関係の明確化)
- 第11回 判例研究II② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第12回 判例研究II③ (報告担当者による判例報告)
- 第13回 判例研究III① (精読: 事実関係の明確化)
- 第14回 判例研究III② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第15回 判例研究III③ (報告担当者による判例報告)

なお受講者の国際法および国際人権法の学習状況によっては, 第2回から第6回の内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献...50%
担当した判例報告の取組...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い, 事前学習を行い, 授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い, 事後学習を進め, 授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

クラスへの参加にあたっては, 十分な予習が求められます。
学部時代の国際法の既習, 未習は問いません。ただし未習の場合は, 授業の組立にも関係しますから, 受講申告前に一度ご相談ください。
まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも, 判決を出す場合に, 国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決と一緒に紐解いてみてください。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【表現の自由】 【B規約第19条】 【法律による制限】

国際法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW550S	研究(法律)	◎		
	専修(法律)	◎		
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	国際法Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。国際法IIでは、健康を享受する権利が絡んだケースに焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

到達目標は、

- 国際人権法に関する専門知識を習得するとともに、国際人権保障システムの現状と課題について説明することができる、
- 裁判の中で、国際的な人権基準が具体的にどのように扱われてきているか、説明することができる、
- 国際人権法の適用・解釈において、国際規準となる健康を享受する権利の視点がどこまで反映されているか、説明することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○
 芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

国際法Ⅳ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法, 研究対象判例の選定
- 第3回 国連と人権の国際的保障枠組み
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動 (UPR, Treaty Bodyにおける報告制度等)】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用: 自動執行力】
- 第7回 判例研究I① (精読: 事実関係の明確化)
- 第8回 判例研究I② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第9回 判例研究I③ (報告担当者による判例報告)
- 第10回 判例研究II① (精読: 事実関係の明確化)
- 第11回 判例研究II② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第12回 判例研究II③ (報告担当者による判例報告)
- 第13回 判例研究III① (精読: 事実関係の明確化)
- 第14回 判例研究III② (精読: 争点の整理, 論点の抽出)
- 第15回 判例研究III③ (報告担当者による判例報告)

なお受講者の国際法および国際人権法の学習状況によっては, 第2回から第6回の内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への貢献...50%
- 担当した判例報告への取組...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い, 事前学習を行い, 授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い, 事後学習を進め, 授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

可能な限り, 国際法Iと合わせて受講してください。
クラスへの参加にあたっては, 十分な予習が求められます。
国際法IIから参加する場合, これまでの国際法の既習, 未習は問いません。ただし未習の場合は, 授業の組立にも関係しますから, 受講申告前に一度ご相談ください。開講前に補講を課す場合があります。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも, 判決を出す場合に, 国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【医薬品アクセス】 【強制実施】

法哲学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW511S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	法哲学Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】法哲学に関する高度な知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】法哲学上の問題に対する高い批判的分析能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ～ テキスト選択と参考文献の指示など【あくまで例示】
- 第2回 選択したテキストについての概観
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【公正としての正義】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【正義の諸原理】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【原初状態】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【平等な自由】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【分配上の取り分】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【義務と責務】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【合理性としての善さ】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【正義感覚】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【正義の善】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【正義】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【制度】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【善】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学III 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジユメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公正 正義 分配

法哲学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW511S	研究(法律)	◎	○	
	専修(法律)	◎	○	
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	法哲学Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】法哲学に関する高度で総合的な知識を身につけている。
- 【高い問題解決能力と表現力】法哲学上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ～ テキスト選択と参考文献の指示など【以下、あくまで例示】
- 第2回 選択したテキストに関する背景の概観【現代正義論の展開】
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【リバタリアニズム】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【ノージック】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【市場】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【自己所有権】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【自由と平等】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【平等】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【ノージックとロック】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【ロックとマルクス】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【不正】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【自己所有権への疑問】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自己所有権の批判的検討】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【自己所有権・自由・平等】
- 第15回 まとめ

法哲学Ⅳ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 リバタリアニズム ノージック 自己所有権 自由 平等

法律実務特講Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 末廣清二・小宮香織・根岸大将

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
LAW590S	研究(法律)	○	◎	○
	専修(法律)	○	◎	○
	研究(政策)		◎	
	専修(政策)		◎	△
科目名	法律実務特講Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

- ① 刑事弁護実務 (担当 弁護士根岸大将)
- ② 法律相談の実務 (担当 弁護士小宮香織)
- ③ 債権回収・倒産処理 (担当 弁護士末廣清二)

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
法律実務に関する高度で総合的な知識を身につけている。
- 【高い問題解決能力と表現力】
法律実務上の問題に対する高い論理的思考能力を身につけている。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

法律実務特講II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事弁護実務
 - 第1回 捜査段階の弁護活動
 - 第2回 続・捜査段階の弁護活動
 - 第3回 公判段階の弁護活動
 - 第4回 事実認定・弁論
 - 第5回 裁判員裁判
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
 - 第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置（法律相談は入り口である。）
 - 第2回 典型的な民事事件の相談事案（具体的事件に即し）
 - 第3回 家事事件（夫婦関係・相続問題）相談事案（同上）
 - 第4回 交通事故・刑事事件の法律相談（同上）
 - 第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ 債権回収・倒産処理
 - 第1回 民事保全手続きによる債権の保全
 - 第2回 担保権に基づく債権回収
 - 第3回 民事執行手続きによる債権回収
 - 第4回 法的倒産処理手続き
 - 第5回 私的整理手続き

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記①は刑事法，上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから，各自学部で習ったことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	憲法特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに応じて、関連する憲法学的知見を学び、学説、判例を検討し、問題意識を深めることを通じて、修士論文または特定課題研究へ向けた準備を行うことを目的とする。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】憲法に関する高度な専門的知識を身につけている

【高い問題解決能力と表現力】憲法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて、適宜指導する。

憲法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文献や判決の決定
- 第4回 基本書読解① -研究テーマに関する部分の報告I
- 第5回 基本書読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第6回 基本書読解③ -研究テーマに関する部分の報告II
- 第7回 基本書読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第8回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I
- 第9回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第10回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II
- 第11回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第12回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III
- 第13回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第14回 研究テーマの再検討
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I
- 第17回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第18回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II
- 第19回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第20回 判例研究⑤ -研究テーマに関連する判決の報告III
- 第21回 判例研究⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第22回 論文作成へ向けて① -テーマの明確化
- 第23回 論文作成へ向けて② -全体構成I
- 第24回 論文作成へ向けて③ -全体構成II
- 第25回 論文作成へ向けて④ -全体構成III
- 第26回 論文作成へ向けて⑤ -収集文献・資料の再検討I
- 第27回 論文作成へ向けて⑥ -収集文献・資料の再検討II
- 第28回 論文作成へ向けて⑦ -収集文献・資料の再検討III
- 第29回 論文作成へ向けて⑧ -工程表の確定
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の研究報告内容：50%、議論・検討への参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、各回の課題や研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。
それをもとにして検討を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法特別研究Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	民法特別研究Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

民法の中の物権の分野について研究をしたい。物権分野の数々の論点について、いわゆる判例や学説の議論を見ながら、私見を考えてゆく。この科目は、主として研究者を目指す人が履修する科目であるので、研究者の議論を重視し、参加者による報告を基礎に進めてゆきたい。特に、近時、物権法の改正も議論されているので、それについても、考えたい。この科目を履修することで、研究者の視点で民法を考える能力が養われるであろう。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度な専門的知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】民法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている

教科書 /Textbooks

特定の書籍を教科書とすることは、ない。むしろ、物権法の主要な本はすべて見る必要がある。図書館で、随時、物権に関連する書籍を参照してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 我妻栄『近代法における債権の優越的地位』(有斐閣)
- 川島武宜『所有権法の理論』(岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 ガイダンス | 2 物権と債権の違いに関する諸問題 |
| 3 物権法定主義をめぐる諸問題 | 4 慣習法上の物権をめぐる諸問題 |
| 5 物権的請求権をめぐる諸問題 | 6 物権行為をめぐる諸問題 |
| 7 所有権の移転時期をめぐる諸問題 | 8 公示制度をめぐる諸問題 |
| 9 登記請求権をめぐる諸問題 | 10 177条の第三者の客観的範囲をめぐる諸問題 |
| 11 177条の第三者の主観的範囲をめぐる諸問題 | 12 無効・取消・解除と登記をめぐる諸問題 |
| 13 相続と登記をめぐる諸問題 | 14 時効と登記をめぐる諸問題 |
| 15 中間省略登記をめぐる諸問題 | 16 動産物権変動をめぐる諸問題 |
| 17 即時取得をめぐる諸問題 | 18 占有をめぐる諸問題 |
| 19 所有権の意義をめぐる諸問題 | 20 相隣関係・囲繞地通行権をめぐる諸問題 |
| 21 付合・混和・加工をめぐる諸問題 | 22 共有をめぐる諸問題 |
| 23 用益物権をめぐる諸問題 | 24 留置権をめぐる諸問題 |
| 25 先取特権をめぐる諸問題 | 26 質権をめぐる諸問題 |
| 27 抵当権をめぐる諸問題 | 28 物上代位及び目的物利用権者保護をめぐる諸問題 |
| 29 譲渡担保・非典型担保をめぐる諸問題 | 30 物権法改正をめぐる諸問題 |

民法特別研究II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

普通の報告（50%）とレポート（50%）を総合考慮して、評価する。レポートは、学期終了時に提出してもらう。テーマは、物権法の中で特に興味を持った点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として物権関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。加えて、近時の物権法改正の議論の対象となっている論点については、その改正の議論にも触れることが望まれる。

履修上の注意 /Remarks

日々、基礎法学関連の本を読むことが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者を目指す場合、上記2冊は「必読」文献であり、この2冊をきちんと読むことが、そもそもの出発点であろう。

キーワード /Keywords

物権、担保物権

民法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	民法特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習は、「研究者コース」所属院生のうち、民法（主として財産法）分野を専攻する者の「修士論文」執筆を指導ないし支援することを目的とする（今年度は、修士1年生が主たる受講者と想定される。よって、修士1年目の研究計画にそって修士論文のテーマ確定に向けた研究指導・支援を行う。）。各回の詳細な指導内容等については、受講院生の研究テーマや受講人数（1名なら完全な修士論文個別指導となる。）を斟酌して協議のうえ決定するが、後掲「授業計画・内容」に示した通り、概ね以下の「4本柱」が中心となる。

- ① 修士論文のテーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の種々の論説についての批判的検討および報告
- ② 修士論文のテーマ（仮）に直結または関連するわが国の（裁）判例の研究および報告（判決理由の精読・解析）
- ③ 修士論文のテーマ（仮）に直結または関連する外国（本演習で扱うことが可能な外国民法は、フランス法および英米法に限られる。ドイツ法は扱うことができないので注意すること。）の民法学のテキスト（原著）講読
- ④ 修士論文のテーマの確定・執筆開始。それに対する添削・指導

なお、受講院生が複数いる場合、各受講院生は、他の受講院生の研究報告等についても、質問や資料講読などを通じて、お互いの研究内容について批判的検討を行う必要がある。同じ研究者コース所属院生同士、互いの研究内容を認め合い、かつ、研究作業において切磋琢磨してもらいたい。また、法学系の（民法）研究者コースの修士論文では、外国法の原著を読みこなす能力が必須であるから、その前提として、外国語の基礎文法は本演習受講前に自学・自習しておくことが望ましいことを申し添えておく。

※なお、この科目の到達目標は下記の通りである。

【「民法特別研究II」到達目標】

DP1 高度な専門的知識・技能：民法に関する高度な専門的知識を身につけている。

DP2 高い問題解決能力と表現力：民法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている。

DP3 高い倫理観に基づいた自律的行動力：問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講院生の研究テーマ（仮）および比較法の対象とする外国法が決定してから、資料（論文のコピー、判例（民集等）のコピー）、および外国民法の原著のコピー）を配布するので、現時点では教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

たとえば、フランス法を比較法の対象とする院生であれば、古書で必ず、柳川 勝二『佛和法律辞書』（判例タイムズ社、1975年※絶版）を入手しておくこと。その他の外国法の法律辞書については、初回授業の際に情報を提供する。

民法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※受講院生の人数・研究テーマの内容・関連性、原著講読能力等を考慮し、受講院生と協議・調整しつつ、フレキシブルに授業を進める。
 ※昨年度からの継続指導該当者はいないので、修士1年目の指導計画・内容を以下の通り示す。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や対面との複合形態。いわゆる「ハイブリッド型」ゼミなど）に変更となる回が生じる可能性がある。よって、受講院生諸君はmoodleや教員からのメール等でこまめに情報収集・確認に努められたい。

- 第1回：ガイダンス（受講院生の大まかな希望研究テーマ〔仮〕・比較法の対象の聞き取り）
- 第2回：修士論文の大まかなテーマ（仮・変更は当然あり得る。）を考える。
- 第3回：1学期の研究計画の策定
- 第4回：資料・文献渉猟（わが国の民法体系書・研究書のリストアップ）
- 第5回：資料・文献渉猟（わが国の〔裁〕判例のリストアップ）
- 第6回：資料・文献渉猟（外国民法の体系書・論文のリストアップ）※1学期は原著講読の進捗状況について、適宜授業内で確認するに留めるが、受講院生の希望により、原著講読指導の時間に変更する場合もあり得る。
- 第7回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）①（令和時代）
- 第8回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）②（平成時代）
- 第9回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）③（昭和・戦後期）
- 第10回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）④（昭和・戦前期）
- 第11回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）⑤（明治・大正期）
- 第12回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）⑥法典調査会議事速記録など民法典（現行規定・原始規定）編纂過程の研究
- 第13回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の民法学の論説の検討および報告（予定）⑦旧民法（ボワソナード草案も含む予定。）の研究
- 第14回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の〔裁〕判例の研究および報告（予定）①（最重要判決の検討）
- 第15回：修士論文の「テーマ探し・決定」に関する中間報告（1回目）および指導と1学期のまとめ
 【夏季休暇～しっかり外国法の知見を原著講読等を通じて深めること！～】
- 第16回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の〔裁〕判例の研究および報告（予定）②（最高裁判決群の研究）
- 第17回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の〔裁〕判例の研究および報告（予定）③（大審院判決群の研究）
- 第18回：論文テーマ（仮）に直結または関連するわが国の〔裁〕判例の研究および報告（予定）④（下級審裁判例の研究）
- 第19回：わが国の関連判例の推移・変遷についての分析
- 第20回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテキスト（原著）講読①（基本書）
- 第21回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテキスト（原著）講読②（体系書・研究書）
- 第22回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテキスト（原著）講読③（関連論文・前半部分）
- 第23回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテキスト（原著）講読④（関連論文・後半部分）
- 第24回：論文テーマ（仮）に直結または関連する外国の民法学のテキスト（原著）講読⑤（関連論文・補足）
- 第25回：比較法の分析手法について
- 第26回：修士論文のテーマ（仮）からテーマ確定へ（分析基軸の設定に向けた検討）
- 第27回：修士論文のテーマ（仮）からテーマ確定へ（設定した分析基軸についての報告・指導）
- 第28回：修士論文の「テーマ探し・決定」に関する中間報告（2回目）および指導
- 第29回：修士論文のテーマ確定および執筆開始・指導①（「はじめに」からではなく、これまでの授業の成果を踏まえ、具体的検討内容から書き進めてみよう。）
- 第30回：（最終回）修士論文のテーマ確定および執筆開始・指導②（具体的検討内容の執筆・指導）、修士2年目の研究計画の策定、およびまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 日常の授業への取り組み（研究・論文執筆作業の積極性、複数回課す研究報告の内容）……30%
 - ・ 各学期1回ずつ課す（予定の）修士論文の「テーマ探し・決定」に関する報告……20%
 - ・ 「修士論文」のテーマを確定させ（修士1年2学期頃）、そのテーマに関するレポート（修士論文執筆の前提となる「研究ノート」）を6,000字程度で執筆・提出すること（2022（令和4）年2月初旬〆切。なお、受講院生が複数いる場合は、他の院生の修士論文の研究テーマについても疑問点などを簡潔に言及すること。）……50%
- 上記の合算（100%）で成績を評価する。
 【注意】大学院の授業においても、当然ながら正当な理由なき遅刻や無断欠席は許されない。これらの行為が見られる場合は、上記成績から大幅に減点するので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】第3回授業以降、受講院生の研究進捗状況を見ながら、次回までに熟読しておくべき資料・文献ないし邦訳しておくべき外国民法のテキスト（原著）を配布または指示するので、事前に資料の渉猟、精読、および邦訳をしていくことが求められる（特に1学期）。特に2学期（第16回）以降は、修士論文のテーマ確定に関する研究ノートの書けたことまでを添付ファイル等で事前に提出することが求められる。なお、これらの予習に必要な学習時間の目安は120分である。
- 【事後学習】各回の授業で担当者が指示した追加資料の分析・原著邦訳の修正などを行うことが求められる。なお、この復習に必要な学習時間の目安は120分である。

履修上の注意 /Remarks

論文執筆・研究にかかると作業は、コツコツ地道な努力が絶対的に必要であり、特に修士1年次段階では、比較法研究において、語学（原著講読の力）という壁にぶつかることも多いと思われる。だが、辞書を引いて毎日少しずつ原著を訳す習慣を身に着ければ、1年間でその邦訳スピード・精度は格段にレベルアップすると予測される。そして、この授業に主体的かつ積極的に取り組んでいけば、研究計画の順調な遂行も望めよ

民法特別研究II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

う。「修士論文完成」という遥かな頂に向けて、しっかりと無理のない研究計画を策定し、着実に指導内容をクリアしてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

15年以上前、私にも大学院修士課程時代がありました。毎日書庫に籠って古い文献を読み漁り、仏和辞書・仏和法律辞書がボロボロになるまで原著を訳した毎日……。修士1年目は先の見えない実に苦しい時期ですが、1日1日を大切に研究活動を頑張ってください。支援・相談は惜しみません。あと、心身が壊れるほどの無理は禁物です。気分転換をしっかりと取り入れて、充実した研究者コースでの2年間を過ごして下さい！

キーワード /Keywords

修士論文、修士論文のテーマ（論文の分析基軸）の決定、民法学（財産法学）、フランス法、英米法

民法特別研究Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	民法特別研究Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、参加者とともに契約法分野に関する論文を読み込みたい。下記の教科書において、各回の授業内容に関連して紹介されている論文から、参加者の希望を踏まえつつ教員が論文を指定する。参加者は指定された論文について報告をし、その報告をもとに議論をしながら授業を進める。良質な論文を多く読むことによって、研究者としての素養が身に付くことが期待できる。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】民法に関する高度な専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】民法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

中田裕康『契約法』（有斐閣、2017年）4800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

毎回、読むべき論文を指定する。

民法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 民法改正と契約法
- 3 契約の意義
- 4 契約の成立に関する諸問題
- 5 契約の成立過程における諸問題
- 6 同時履行の抗弁権
- 7 危険負担
- 8 第三者のためにする契約
- 9 契約の解除その1
- 10 契約の解除その2
- 11 契約の変更
- 12 贈与
- 13 売買の意義及び成立
- 14 売買の効力
- 15 消費貸借の意義及び成立
- 16 消費貸借の効力
- 17 使用貸借
- 18 質貸借の意義及び当事者間の関係
- 19 第三者との関係
- 20 特別法上の質貸借
- 21 雇用
- 22 請負の意義及び成立
- 23 請負の効力
- 24 委任の意義及び成立
- 25 委任の効力
- 26 寄託の意義及び成立
- 27 寄託の効力
- 28 組合の意義及び成立
- 29 組合の効力及び組合員の変動
- 30 和解

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容や質問・コメントの内容の評価が50%、レポートの評価が50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告や質問によって授業の進み方が左右されるので、事前学習に力を入れて欲しい。
事前学習としては、教科書の該当範囲及び指定された論文を読むことが必須である。
事後学習としては、当該問題について自らの考えをまとめることを求める。

履修上の注意 /Remarks

論文の入手に時間と費用が掛かることがあり得る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定された論文に留まらず、当該論文で取り上げられている別の文献を読み込むなど自律的に学ぶことを期待する。

キーワード /Keywords

契約法

刑法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	刑法特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者の研究テーマについて刑法学上の基本文献と判例を分析し、加えて外国法を参照することによって、修士論文の問題設定と構成を明確化することを目指します。ここでは、①代表的な先行研究の正確な内容把握と、②判例の系譜の解明、③外国文献の精読および比較法的考察を柱として、研究の基本的な技法を体得していくことになります。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】刑法に関する高度な専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】刑法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 邦語文献については、受講者のテーマに応じて紹介します。一つの手がかりとして、
○伊東研祐・松宮孝明編『リーディングス刑法』(法律文化社、2015年)
- 比較法の対象についても受講者の選択に委ねますが、導入的なものとして、
○Claus Roxin, Strafrecht Allgemeiner Teil, Band 1, 4. Auflage, München 2006.
(邦訳：山中敬一監訳『ロクシン刑法総論第1巻[第4版]』(信山社、2019年))
- Markus Dubber/ Tatjana Hörnle (eds.), The Oxford handbook of criminal law, Oxford 2014.

刑法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：テーマと演習の進め方の確認
- 第2回 基本文献の紹介と選定
- 第3回 基本文献の読解①：著者の問題設定と全体構成に関する報告
- 第4回 基本文献の読解②：前回の報告に基づく議論・検討
- 第5回 基本文献の読解③：著者による判例分析の概要の報告
- 第6回 基本文献の読解④：前回の報告に基づく議論・検討
- 第7回 基本文献の読解⑤：著者による先行研究の分析の概要報告
- 第8回 基本文献の読解⑥：主要な先行研究（1）の紹介・分析
- 第9回 基本文献の読解⑦：主要な先行研究（2）の紹介・分析
- 第10回 基本文献の読解⑧：前回までの報告に基づく議論・検討
- 第11回 基本文献の読解⑨：著者が提示する結論の報告
- 第12回 判例研究①：最新判例の紹介
- 第13回 判例研究②：判例評釈の紹介・分析
- 第14回 判例研究③：従来の判例との比較・分析
- 第15回 前半のまとめ：研究テーマの再検討と修論執筆計画の策定
- 第16回 比較法研究の意義と方法
- 第17回 外国文献の講読①：犯罪論の体系（1）全体像の確認
- 第18回 外国文献の講読②：犯罪論の体系（2）基本用語の確認
- 第19回 外国文献の講読③：犯罪論の体系（3）基本用語の確認
- 第20回 外国文献の講読④：犯罪論の体系（4）客観的要素と主観的要素の関係
- 第21回 外国文献の講読⑤：研究テーマ（1）問題の所在の確認
- 第22回 外国文献の講読⑥：研究テーマ（2）基本用語の確認
- 第23回 外国文献の講読⑦：研究テーマ（3）学説の紹介
- 第24回 外国文献の講読⑧：研究テーマ（4）学説の分析
- 第25回 修士論文の作成支援①：問題の所在の報告・検討
- 第26回 修士論文の作成支援②：収集する資料の再検討
- 第27回 修士論文の作成支援③：判例分析の報告・検討
- 第28回 修士論文の作成支援④：先行研究の分析の報告・検討
- 第29回 修士論文の作成支援⑤：結論の報告・検討
- 第30回 まとめ：修士論文の最終的な補正、外国語学習法の確認

※受講者の関心と能力に応じて、内容と進度を適宜変更します。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の研究報告の内容（50％）と、議論への積極的な参加（50％）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習）邦語文献については、各回のテーマに関連する箇所を精読して、内容をまとめるようにして下さい。外国文献については、各回の対象箇所を丁寧に訳しながら、読み進めて下さい。できるだけ、実際に訳文を作成していただくことを推奨します。
（事後学習）授業中に上がった質問や批判について、テキストの該当箇所を丁寧に再読し、関連する文献に当たって調べるようにして下さい。それを基に、論文の下書きを作成していただくことを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

この演習の最大の目的は、受講者が自律的な研究遂行能力を養うことです。したがって、上記の内容はあくまでも大枠であって、受講者自身が自らの研究計画の遂行にとって必要と考えられる事柄を積極的に提案し、演習の内容や方法を主体的にアレンジしていくことが求められます。また、修士論文の作成と並行して外国文献を講読することは容易ではないと考えられますが、博士課程の入学試験を見据えた準備作業として、根気強く取り組むことが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一つ一つ丁寧に積み上げて、地道に取り組んでいくことが肝要です。論文の執筆は地味な作業ではありますが、決して全くの孤独な営為ではありませんので、対話しながら進めていきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法学 判例研究 比較法研究

社会保障法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	社会保障法特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会保障法領域を専門分野として研究を進めたい院生を対象として、関心領域及び周辺領域の知識を深め、自身の修士論文執筆の準備段階として、多くの文献に触れる。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】社会保障法に関する高度な専門的知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】社会保障法上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しないが、受講者の関心に応じて、適宜紹介する。

社会保障法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的な内容は受講生の研究内容に応じて変更する。

第1回 ガイダンス -講義の概要説明

第2回 研究テーマの確認

第3回 取り上げる文献や判決の決定

第4回 基本文献読解① ~研究テーマに関する部分の報告【健康保険】

第5回 基本文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討

第6回 基本文献読解③ ~研究テーマに関する部分の報告【国民健康保険】

第7回 基本文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討

第8回 専門文献読解① ~研究テーマに関する専門文献の報告【高齢者医療保険】

第9回 専門文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討

第10回 専門文献読解③ ~研究テーマに関する専門文献の報告【医療保障システム比較】

第11回 専門文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討

第12回 専門文献読解⑤ ~研究テーマに関する専門文献の報告【保険制度比較】

第13回 専門文献読解⑥ ~前回報告に基づく議論・検討

第14回 研究テーマの再検討と今後の修論執筆計画策定

第15回 1学期のまとめ

第16回 専門文献読解⑦ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【国民保健制度比較】

第17回 専門文献読解⑧ ~前回報告に基づく議論・検討

第18回 専門文献読解⑨ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障の財源論】

第19回 専門文献読解⑩ ~前回報告に基づく議論・検討

第20回 専門文献読解⑪ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障請求権】

第21回 専門文献読解⑫ ~前回報告に基づく議論・検討

第22回~第25回 修士論文作成支援① ~テーマの明確化、全体構成の検討

第26回~第29回 修士論文作成支援② ~収集文献・資料の検討と具体的進行計画の策定

第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告の内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点をまとめる。
(事後学習) 学習内容を振り返り、知識の定着を図ると同時に、自らの研究に活かす。

履修上の注意 /Remarks

研究テーマに応じて、授業進行を変更することもある。
修士論文作成に向けて、各自の研究を着実にコツコツ進めるよう努力してください。
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

国際法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	国際法特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文の作成を支援することを目的とします。
本講義は、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、必要な国際法上の議論に触れ、その理解を深めるための機会を提供するものです。
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていただく構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の問題関心領域とは異なったテーマであったとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れないでください。
到達目標は、
修士論文の作成に必要な知識や学術技法・作法を身につけること、とします。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

国際法特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

昨年度からの継続指導の該当者はいないので、1年めの指導計画・内容（ほぼ初学者・単独の場合）を例示する。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 修士論文で扱いたいテーマの確認
- 第3回 テーマに関する資料収集① 邦語文献【書籍・論文】
- 第4回 テーマに関する資料収集② 外国語文献【書籍・論文】
- 第5回 テーマに関する資料収集③ WEB【国内の公的機関等】
- 第6回 テーマに関する資料収集④ WEB【外国の公的機関等】
- 第7回 テーマに関する資料収集⑤ WEB【国際機関】
- 第8回 テーマに関する資料収集⑥ 判例【国内】
- 第9回 テーマに関する資料収集⑦ 判例【外国・国際】
- 第10回 邦語文献を用いた研究の進め方
- 第11回 邦語文献の精読①
- 第12回 邦語文献の精読②（続き）
- 第13回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」① 【論文A】
- 第14回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」② 【論文B】
- 第15回 1学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認
《夏季休暇》
- 第16回 判例を用いた研究の進め方
- 第17回 判例研究① 判決文の精読
- 第18回 判例研究② 判決文の精読（続き）
- 第19回 判例研究③ 原判決等との比較検討
- 第20回 判例研究④ 判例評釈等の活用
- 第21回 レジユメを用いた判例研究の「報告」
- 第22回 外国語文献を用いた研究の進め方① 語学力の確認
- 第23回 外国語文献を用いた研究の進め方② パラグラフリーディングと論文構造の把握（一読によるあらレジユメの作成）
- 第24回 外国語文献の精読①
- 第25回 外国語文献の精読②（続き）
- 第26回 外国語文献の精読③（続き）
- 第27回 外国語文献の精読④（続き）
- 第28回 レジユメを用いた外国語文献の「報告」
- 第29回 修士論文で扱いたいテーマの明確化
- 第30回 2学期進捗状況の振り返りと2年次に向けての作業の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。
なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。
まずは ninomiya@kitakyu-u.ac.jp まで。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した（させられた）という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えてくれています。
院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

キーワード /Keywords

【修士論文】 【指導】 【国際法】

法哲学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)	△	○	◎
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	法哲学特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

研究者コースを履修する学生に、法哲学領域に関する修士論文の作成を指導し、修士論文の構想の確定を目指します。
 その際、「専門基礎科目」や「専門科目」などの学習を通してこれまでに修得してきた、調査研究方法や分析能力、高度な専門知識や総合的観点をベースとして、自らが選択したテーマについて、研究を専門的に深化させていきます。論文の完成に向けて、邦語文献の検討だけでなく、外国語文献の読解・検討も行います。
 授業で扱う具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定します。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】法哲学に関する高度な専門的知識を身につけている。
- 【高い問題解決能力と表現力】法哲学上の問題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

法哲学特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに～ 修士論文とは
- 第2回 研究テーマ策定
- 第3回 研究方法の検討
- 第4回 先行研究の調査と基本文献・資料の選定
- 第5回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討①【邦語文献】
- 第6回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討②【外国語文献】
- 第7回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討③【データベース等の利用】
- 第8回 研究テーマに関連する報告と議論①【邦語一次文献】
- 第9回 研究テーマに関連する報告と議論②【邦語二次文献】
- 第10回 研究構想一次報告
- 第11回 研究構想一次報告の検討
- 第12回 研究構想一次報告の修正
- 第13回 研究テーマに関連する報告と議論③【外国語一次文献】
- 第14回 研究テーマに関連する報告と議論④【外国語二次文献】
- 第15回 1学期の進捗状況の確認と夏季休暇中の課題の確認
- 第16回 夏季休暇中の研究進行状況の確認
- 第17回 基本文献の再選定
- 第18回 邦語一次文献についての報告
- 第19回 邦語一次文献についての議論
- 第20回 邦語一次文献報告への論評
- 第21回 邦語二次文献についての報告・議論・論評
- 第22回 外国語一次文献についての報告
- 第23回 外国語一次文献についての議論
- 第24回 外国語一次文献報告への論評
- 第25回 外国語二次文献についての報告・議論・論評
- 第26回 修士論文で利用する文献についての中間総括的報告と議論
- 第27回 修士論文の構想報告
- 第28回 修士論文の構想報告についての議論
- 第29回 修士論文の構想報告の修正
- 第30回 2学期の進捗状況の確認と2年次の課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定の文献がある場合は、それを事前にきちんと読み、理解した上で質問を考え予習しておいてください。授業の後は、当回の資料等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

専門基礎科目の「法律文献調査」では、文献調査の方法や引用の仕方なども学びますので、しっかりと習得して下さい。
なお、外国語文献の読解に必要な英語力は、当然の前提として要求されます。それに加えて、専門として扱う分野によっては、ドイツ語などの第二外国語の習得が必要になる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的に研究に取り組む姿勢を尊重したいと考えています。

キーワード /Keywords

法哲学 研究指導 修士論文

私法領域特定課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(ベア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
AST611R	研究(法律)			
	専修(法律)	△	○	◎
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	私法領域特定課題研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この科目は、「専修コース」の院生を対象に特定課題研究の完成に向けた指導を行うことを目的として開講しています。指導の詳細は、院生と相談の上で決定します。初回ガイダンスには必ず出席してください。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】 関心を持った特定課題に関する高度な専門的知識を身につけている
- 【高い問題解決能力と表現力】 関心を持った特定課題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】 問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている

教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

私法領域特定課題研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 集団指導教員、指導内容の相談
- 2回 代表指導教員による指導 - 研究テーマ、研究内容の検討
- 3回 代表指導教員による指導 - 研究方法の検討、基本文献・資料の選定
- 4回 代表指導教員による指導 - 研究指導計画策定（テーマ別分担当指導内容決定）
- 5回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 6回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料の精読
- 7回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 8回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の収集
- 9回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の精読
- 10回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の精読
- 11回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の検討
- 12回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の精読
- 13回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の検討・整理
- 14回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 15回 代表教員による指導 - テーマ①に関する進捗状況の確認と夏季休暇中の作業の確認
- 16回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 17回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料の精読
- 18回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 19回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の収集
- 20回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の精読
- 21回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の精読
- 22回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の検討
- 23回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の精読
- 24回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の検討・整理
- 25回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 26回 代表指導教員による指導 - テーマ①及び②に関する研究の進捗状況と今後の作業内容の確認
- 27回 代表指導教員による指導 - 基本文献・資料による補充指導
- 28回 代表指導教員による指導 - 関係文献・資料による補充指導
- 29回 代表指導教員による指導 - 関係判例による補充指導
- 30回 代表指導教員による指導 - 研究成果の取りまとめと次年度に向けた作業内容の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み：10%、特定課題研究成果：90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。
また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

受講生が主体的に取り組むのでなければ研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジユメを作成してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法領域特定課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
AST611R	研究(法律)			
	専修(法律)	△	○	◎
	研究(政策)			
	専修(政策)			
科目名	公法領域特定課題研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、専修コースの大学院生が特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。
授業においては、受講者の関心領域と問題意識に応じて特定課題研究論文を作成することを通して、高度専門職業人または高度で知的な素養のある人材として活躍し得る水準に到達することを目標とする。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】関心を持った特定課題に関する高度な専門的知識を身につけている。
- 【高い問題解決能力と表現力】関心を持った特定課題を分析し論理的に表現する高い能力を身につけている。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】問題解決に向けた積極的・主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

予めは、指定しない。開講後、受講者の関心領域に応じて、適宜指示する場合もある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心領域に応じて、適宜指示する。

公法領域特定課題研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 特定課題研究とは何か
- 3 回 関心領域の確認
- 4 回 基礎的文献の選択 (1 日本語文献)
- 5 回 基礎的文献の選択 (2 外国語文献)
- 6 回 その他の文献の検討 (1 判例等)
- 7 回 その他の文献の検討 (2 その他)
- 8 回 テーマの確定
- 9 回 構想の検討 (1 視角)
- 10回 構想の検討 (2 構成)
- 11回 構想の検討 (3 結論)
- 12回 使用文献のまとめ (1 主要文献)
- 13回 使用文献のまとめ (2 その他の文献)
- 14回 文献読解状況の報告と検討 (主要文献序盤)
- 15回 文献読解状況の報告と検討 (主要文献前半)
- 16回 文献読解状況の報告と検討 (主要文献中盤)
- 17回 文献読解状況の報告と検討 (主要文献後半)
- 18回 文献読解状況の報告と検討 (その他の文献序盤)
- 19回 使用文献についての報告と検討 (その他の文献前半)
- 20回 使用文献についての報告と検討 (その他の文献後半)
- 21回 特定課題研究内容の報告と検討 (序論)
- 22回 特定課題研究内容の報告と検討 (第1章前半)
- 23回 特定課題研究内容の報告と検討 (第1章後半)
- 24回 特定課題研究内容の報告と検討 (第2章前半)
- 25回 特定課題研究内容の報告と検討 (第2章後半)
- 26回 特定課題研究内容の報告と検討 (第3章前半)
- 27回 特定課題研究内容の報告と検討 (第3章後半)
- 28回 特定課題研究内容の報告と検討 (第4章以下)
- 29回 全体のまとめ (結論)
- 30回 全体のまとめ (総合)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み... 10% 特定課題研究成果... 90パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、該当回の内容を事前に把握し予習しておくこと。授業の後は、配付資料等をもとに、内容を整理し、復習を行うこと。また、自己の関心領域に合わせて文献、資料等を収集し、整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策調査法【夜】

担当者名 /Instructor 政策科学科教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS500S	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)		◎	○
	専修(政策)		◎	○
科目名	政策調査法		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、これから大学院で研究する学生が、大学院で研究するに際して必要となる（研究の）方法論、調査方法、修士論文・特定課題研究執筆のために知っておくべき基本的な知識を提供することにあります。大学院での研究といっても、政策科学系の学生は、学生の専門によって方法論等が異なるため、講義は指導教員を中心とした集団指導体制で行うことを予定しています。

（到達目標）

【高い問題解決能力と表現力】自分の専門分野について、研究の方法論、調査方法を身に付け、調査結果を適切な方法で表現することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】論文作成の技法と作法を身につけ、自らの専門研究に積極的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は第一回目の講義において担当教員等が指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、各回ごとに教員が紹介する予定であるが、とりあえず以下のものを挙げておきます。

- 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）。
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）。
- 松田憲忠・竹田憲史『社会科学のための計量分析入門-データから政策を考える-』（ミネルヴァ書房、2012年）。
- 真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勁草書房、2004年）。
- ユージン・バーダック(著)、白石賢司他(翻訳)『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ-』（東洋経済新報社、2012年）。

政策調査法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入
2. いかにして政策を研究するのかー政策研究の方法と倫理
3. 先行研究と文献リストの作成
4. 論文作成の技法と作法
5. リサーチ・クエスション及び仮説をたてる
6. 資料やデータを収集する
7. 仮説を検証する
8. 政策を提言する
9. 論文の書き方
10. 定量的分析と定質的分析
 - 1 1. 定量的分析 (1) - 調査票の作成
 - 1 2. 定量的分析 (2) - サンプルング等について
 - 1 3. 定質的分析 (1) - 聞き取り調査
 - 1 4. 定質的分析 (2) - 参与観察法
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、毎回の授業における報告及び授業貢献度 (60%) と学期末のレポート (40%) による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの回の授業担当教員の指示に従って授業の準備をしておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学II 【夜】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政治学II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代民主政治の理論的・実証的分析に関する論文を講読したうえで、議論及び批判的検討を行う。扱う文献は参加者の関心に応じて選択するが、いわゆる三大誌 (APSR, AJPS, JoP) に代表される有力英文誌の2000年以降の論文とする。
民主主義諸国の政治に関心があれば幅広く歓迎するが、教員の専門上、政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなる。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】政治学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】政治学に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(参加人数によって変更する場合があります)

- 第1回 オリエンテーション・自己紹介・担当決め
- 第2回 文献講読
- 第3回 文献講読
- 第4回 文献講読
- 第5回 文献講読
- 第6回 文献講読
- 第7回 文献講読
- 第8回 中間まとめ、各自の研究関心について
- 第9回 文献講読
- 第10回 文献講読
- 第11回 文献講読
- 第12回 文献講読
- 第13回 文献講読
- 第14回 文献講読
- 第15回 まとめ

政治学II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参加者全員が事前に文献を精読し、コメントを用意してることが求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政治学Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政治学主要雑誌の近年の論文から、参加者の関心と相談の上輪読対象を決定し、これを読解し批判的に検討する。3大メジャー誌 (American Political Science Review, American Journal of Political Science, Journal of Politics), British Journal of Political Science, European Journal of Political Research, Comparative Political Studies, International Organization を対象とする。これらの学究を通じ、履修者が「政治学に関する専門的な知識を身に付けている」「政治学に必要なスキルを身に付けている」ことをディプロマポリシーとする。

教科書 /Textbooks

特定書籍の教科書なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로・担当決め
- 第2回 政治学学術論文輪読 1本目
- 第3回 政治学学術論文輪読 2本目
- 第4回 政治学学術論文輪読 3本目
- 第5回 政治学学術論文輪読 4本目
- 第6回 前半フォローアップと中盤の担当決め
- 第7回 政治学学術論文輪読 5本目
- 第8回 政治学学術論文輪読 6本目
- 第9回 政治学学術論文輪読 7本目
- 第10回 政治学学術論文輪読 8本目
- 第11回 中盤フォローアップと後半の担当決め
- 第12回 政治学学術論文輪読 9本目
- 第13回 政治学学術論文輪読 10本目
- 第14回 政治学学術論文輪読 11本目
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加の上での報告と議論への参加 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の輪読論文については全員が事前に読解の上コメントを用意してくることを求める。
内容の検討が重要であり英文読解は(重要な場所を除き)授業内では行わないため、その点については各人が予習・復習において対応する事。

政治学III 【夜】

履修上の注意 /Remarks

2021年度は政治学IIIとIVが連続した時間で実施される。履修に当たっては科目担当者と事前によく相談すること。

上記に挙げた主要誌のうち、EJPRとCPSについては現在の本学環境ではアクセスできないため、EJPRについては教員個人資産を介して、CPSはILL等を通じて入手するものとする（新しいものについては教員購読分の利用が可能である）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政治学Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政治学主要雑誌の近年の論文から、参加者の関心と相談の上輪読対象を決定し、これを読解し批判的に検討する。3大メジャー誌 (American Political Science Review, American Journal of Political Science, Journal of Politics), British Journal of Political Science, European Journal of Political Research, Comparative Political Studies, International Organization を対象とする。これらの学究を通じ「政治学に関する専門的かつ応用的な知識を身に付けている」こと「政治学に必要な手法を適切に運用できる能力を身につけている」ことが本科目のディプロマポリシーとなる。

教科書 /Textbooks

特定書籍の教科書なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ・担当決め
- 第2回 政治学学術論文輪読 1本目
- 第3回 政治学学術論文輪読 2本目
- 第4回 政治学学術論文輪読 3本目
- 第5回 政治学学術論文輪読 4本目
- 第6回 前半フォローアップと中盤の担当決め
- 第7回 政治学学術論文輪読 5本目
- 第8回 政治学学術論文輪読 6本目
- 第9回 政治学学術論文輪読 7本目
- 第10回 政治学学術論文輪読 8本目
- 第11回 中盤フォローアップと後半の担当決め
- 第12回 政治学学術論文輪読 9本目
- 第13回 政治学学術論文輪読 10本目
- 第14回 政治学学術論文輪読 11本目
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加の上での報告と議論への参加 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の輪読論文については全員が事前に読解の上コメントを用意してくることを求める。
内容の検討が重要であり英文読解は(重要な場所を除き)授業内では行わないため、その点については各人が予習・復習において対応する事。

政治学Ⅳ【夜】

履修上の注意 /Remarks

2021年度は政治学ⅢとⅣが連続した時間で実施される。履修に当たっては科目担当者と事前によく相談すること。

上記に挙げた主要誌のうち、EJPRとCPSについては現在の本学環境ではアクセスできないため、EJPRについては教員個人資産を介して、CPSはILL等を通じて入手するものとする（新しいものについては教員購読分の利用が可能である）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PAD510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	行政学Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政学の学問的現況を学び、行政学の基礎知識を得るとともに、学術面での専門性を養う。とくに過去から現在までの教科書の内容を検討しつつ、行政学で扱われてきた研究分野の移り変わりを明らかにする。また外国文献を読むことで行政学の世界的なトピックを学ぶ。

(到達目標)

DP 1 高度な専門的知識・技能：行政学に関する専門的な知識を身に付けている。

DP 2 高い問題解決能力と表現力：行政学に必要なスキルを身に付けている。

DP 3 高い倫理観に基づいた自律的行動力

教科書 /Textbooks

蠟山政道 (1950) 『行政学講義序論』日本評論社。

辻清明 (1976) 『行政学講座』①から⑤巻、有斐閣。

西尾勝・村松岐夫 (1994) 『講座行政学』①から⑤巻、有斐閣。

西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣。

村松岐夫 (2001) 『行政学教科書』有斐閣。

真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣。

曾我謙吾 (2013) 『行政学』有斐閣。

西尾隆 (2016) 『現代の行政と公共政策』放送大学出版会。

縣公一郎 (2017) 『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版会。

フレデリクソン、H.G. (1987) 『新しい行政学』中央大学出版会。

Peters, G.B. and T. Erkkilae and P. von Maravic (2015). Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.

Stella Z. Theodoulou, Ravi K. Roy. (2016). Public Administration: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Pr.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

行政学III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 蛭山政道 (1950) 『行政学講義序論』日本評論社。
- 第3回 辻清明 (1976) 『行政学講座』①から⑤巻、有斐閣。
- 第4回 西尾勝・村松岐夫 (1994) 『講座行政学』①から③巻、有斐閣。
- 第5回 西尾勝・村松岐夫 (1994) 『講座行政学』④から⑤巻、有斐閣。
- 第6回 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣。
- 第7回 村松岐夫 (2001) 『行政学教科書』有斐閣。
- 第8回 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣。
- 第9回 曾我謙吾 (2013) 『行政学』有斐閣。
- 第10回 西尾隆 (2016) 『現代の行政と公共政策』放送大学出版会。
- 第11回 縣公一郎 (2017) 『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版会。
- 第12回 フレデリクソン、H.G. (1987) 『新しい行政学』中央大学出版会。
- 第13回 Peters, G.B. and T. Erkkilae and P. von Maravic (2015). Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.
- 第14回 Stella Z. Theodoulou, Ravi K. Roy. (2016). Public Administration: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Pr.
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論の積極性・・・50%、期末レポート・・・50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学Ⅳ【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PAD510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	行政学Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を 自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。

(到達目標)

- DP 1 高度な専門的知識・技能：行政学に関する専門的かつ応用的な知識を身に付けている。
- DP 2 高い問題解決能力と表現力：行政学に必要な手法を適切に運用できる能力を身につけている。
- DP 3 高い倫理観に基づいた自律的行動力

教科書 /Textbooks

Bell, S and A. Hindmoor, Rethinking Governance, Cambridge University Press.ほか内外の文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義【ガバナンス】【ロッド・ローズ】【ピエールとピーターズ】
- 第3回 ガバナンス概念についての講義【社会中心モデル】【国家中心モデル】
- 第4回 Bell and Hindmoor 第1章【国家中心アプローチ】
- 第5回 Bell and Hindmoor 第2章【国家の再発見】
- 第6回 Bell and Hindmoor 第3章【メタガバナンスと国家の能力】
- 第7回 Bell and Hindmoor 第4章【ハイアラーキーとトップダウンガバナンス】
- 第8回 Bell and Hindmoor 第5章【説得を通じたガバナンス】
- 第9回 Bell and Hindmoor 第6章【市場と契約を通じたガバナンス】
- 第10回 Bell and Hindmoor 第7章【コミュニティ参加を通じたガバナンス】
- 第11回 Bell and Hindmoor 第8章【アソシエーションガバナンス】
- 第12回 Bell and Hindmoor 第9章【結論】【国家中心アプローチ】【社会中心アプローチ】
- 第13回 別文献の購読①【ネットワーク・ガバナンス論】
- 第14回 別文献の購読②【参加型ガバナンス論】
- 第15回 議論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

行政学Ⅳ【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

テキストの輪読のためには、相応の準備が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS520S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政治思想史Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ルソーの『社会契約論』の検討を通じて、社会契約論的なものの考え方がどのように歴史的に形成されてきたのか、またそれを現代においてどのように役立てることができるのかを考えていきます。周知のとおり、社会契約論は近代・現代の民主主義社会の展開において重要な役割を果たしています。そこに現れた人間観や社会観、また権力観の意義と課題を検討することが授業の目的です。

(到達目標)

【高度な専門知識・技能】政治思想史に関する専門的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】政治思想史に必要なスキルを身に付けている。

教科書 /Textbooks

ルソー 『社会契約論 / ジュネーブ草稿』 (中山元訳、光文社古典新訳文庫)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会契約論：検討の課題
- 第2回 社会契約論：歴史的展開過程
- 第3回 社会契約論：現代の展開 (ロールズを中心に)
- 第4回 イギリスからフランスへ (ホブズ・ロック・ヒュームとルソー)
- 第5回 ルソー『社会契約論』Ⅰ 【第一編】
- 第6回 ルソー『社会契約論』Ⅱ 【第二編】
- 第7回 ルソー『社会契約論』Ⅲ 【第三編】
- 第8回 中間考察
- 第9回 ルソー『社会契約論』Ⅳ 【第四編】
- 第10回 ルソー『社会契約論』Ⅴ 【ジュネーブ草稿】
- 第11回 ルソー後の展開Ⅰ 【ド・メーストル】
- 第12回 ルソー後の展開Ⅱ 【カント】
- 第13回 ルソー後の展開Ⅲ 【ロールズ】
- 第14回 社会契約論の今日的意義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず文献を読んでおくこと。また授業後には授業中の議論のポイントをまとめておくこと。

政治思想史Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLS520S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政治思想史Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本政治思想史の歩みを、戦前・戦後を通じて活躍した丸山真男の政治思想を中心にたどりながら、西洋政治思想の摂取がどのように行われたのか、そして日本が自由主義と民主主義を自国に根付かせる過程で問題となったことは何であったのか、検討していきます。それによって西洋政治思想史と日本政治思想史に関する知識の統合的理解を進めます。

(到達目標)

【高度な専門知識・技能】政治思想史に関する専門的かつ応用的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】政治思想史に必要な手法を適切に運用できる能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

- 丸山真男 『戦中と戦後の間』 (みすず書房)
- 丸山真男 『忠誠と反逆 - 転形期日本の精神的位相』 (ちくま学芸文庫)
- 丸山真男 『丸山真男セレクション』 (杉田敦編、平凡社ライブラリー)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後日本政治思想の検討課題
- 第2回 丸山真男「政治学における国家の概念」
- 第3回 丸山真男「国民主義の前期的形成」
- 第4回 丸山真男「福沢諭吉の儒教批判」・「福沢に於ける秩序と人間」
- 第5回 丸山真男「超国家主義の論理と心理」
- 第6回 丸山真男「軍国支配者の精神形態」
- 第7回 丸山真男「日本の思想」
- 第8回 丸山真男「忠誠と反逆」
- 第9回 丸山真男「歴史意識の古層」
- 第10回 丸山批判と丸山後の思想状況
- 第11回 自由主義と正義をめぐる思索I 【共生の作法】
- 第12回 自由主義と正義をめぐる思索II 【公共性】
- 第13回 民主主義をめぐる思索I 【日本の討議デモクラシー論】
- 第14回 民主主義をめぐる思索II 【日本のラディカルデモクラシー論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み：100%

政治思想史IV 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず文献を読んでおくこと。また授業後には授業中の議論のポイントをまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC590S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	途上国開発論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

20世紀には急速な人口増加や科学技術の進展により、人類は大量のエネルギーを消費、同時に環境破壊を繰り返した。1980年代後半から環境に配慮し、持続可能な社会をつくらうとの世界的な動きが出てきた。その教育的な動きとして2005年からのESD（持続可能な開発のための教育）がある。参加型手法を用いて、全体的なアプローチを行い、すべての年齢、階層の人々を対象に行われる。実際の生活に応用することで、生活の質が向上する。大学ではあまり積極的に教えられることのない、学習する機会のないESDを、実践活動を交えながら、学習したい。このESDは、国連大学やユネスコを通して途上国でも広がりを見せている。したがって、途上国で取り組まれているESDとはどのようなものかも学習したい。その際、北九州ESD協議会やフードバンク北九州ライフアゲインと連携し、ESDの実践的な学習を行っていききたい。その際、ファシリテーションスキル取得も同時に行う。以上によって、問題発見・理解力、問題解決能力や実践力が身に付き、自らの生活の質も変えることが可能となる。

知識：途上国開発論に関する専門的な知識を身に付けている
解決能力と表現力：途上国開発論に必要なスキルを身に付けている

教科書 /Textbooks

- * 生方秀紀他編『ESDをつくる～地域でひらく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円
- * 村上芽・渡辺珠湖『SDGs入門』日本経済新聞出版社、2019年、900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 開発教育協会内ESD開発教育カリキュラム研究会編『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』学文社、2010年、2400円
- * 中山修一他編『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院、2011年、5600円
- * 森良『力を引き出すもりもりファシリテーション』まつやま書房、2007年、1500円
- * Education in Human Values~teachers guide, Institute of Satya Sai Education, Fiji, 2006

途上国開発論III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ESD、SDGsと生活についての議論
- 第2回 『ESDをつくる』の輪読と議論（全体概念の理解）
- 第3回 『ESDをつくる』の輪読と議論（地域の教育力＝「ローカル知」）
- 第4回 『ESDをつくる』の輪読と議論（サブサハラとアラスカの持続可能な開発）
- 第5回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論（小学校・中学校用ESD）
- 第6回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論（高校・大学用ESD）
- 第7回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論（インドネシアのパーム油を教材にしたを対象にしたESD）
- 第8回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論（先進国のESD）
- 第9回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論（地域の探求）
- 第10回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論（世界へのつなげ方）
- 第11回 途上国と先進国のESDの事例を知った上での議論
- 第12回 『SDGs入門』の輪読・発表と議論 1（SDGsの理解とビジネスとの関係）
- 第13回 『SDGs入門』の輪読・発表と議論 2（SDGsを取り組む際のヒント）
- 第14回 『SDGs入門』の輪読・発表と議論 3（SDGsのテーマ選び）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 小課題の提出...20% まとめ能力とプレゼン能力...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、指定された文献の箇所を読み、意見を考えてくること、事後学習は、授業で指摘されたことを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に文献は読了のこと、新聞記事を読んでおくこと、英語にもある程度精通することが重要である。場合によっては水俣への研修旅行にも参加可能。まなびとESDステーションの三宅ゼミが関連しているプロジェクトの中で本講義で学習したことを実践に移してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外実践活動も行うので、積極性を身に付け、コミュニケーション能力もある程度保持しておいてほしい。

キーワード /Keywords

ESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs、途上国の環境・社会破壊、北九州ESD協議会、フードバンク北九州ライフアゲイン、開発教育

途上国開発論Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC590S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	途上国開発論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

開発途上国の経済成長は著しい。しかし、同時に、その過程で日本が経験したような水俣病をはじめとする公害や環境破壊が目立って現れてきている。特に、力を持たない貧困層にその影響が及び、被害が出ているのは確かである。本授業では、途上国の開発の影の部分の環境破壊、それによる社会への影響、そしてその対策の模索を受講生との議論を交えながら学習していく予定である。なかでも、後半には、もう少し焦点を絞り、指導教員の専門領域である廃棄物管理の社会配慮といった側面を取り上げたい。それらの学習を通じて、知識の吸収、理解力、英語の読解力や論理的思考力などの向上が図られると考えられる。

知識：途上国開発論に関する専門的かつ応用的な知識を身に付けている
問題解決能力と表現力：途上国開発論に必要な手法を適切に運用できる能力を身につけている

教科書 /Textbooks

必要に応じてその都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Robert B. Potter et al., Geographies of Development—an introduction to development studies 3rd ed., Pearson Education Ltd, Harlow, 2008
 恩田守雄『開発社会学～理論と実践』ミネルヴァ書房、2001年
 ユネスコ発行のESDに関する数々の英文資料
 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
 中尾正義 他 編 『中国の水環境問題』勉誠出版、2009年、2800円

途上国開発論Ⅳ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発途上国における諸問題の理解
- 第2回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 1 (開発に関する理論と戦略の歴史)
- 第3回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 2 (グローバル化の中での開発)
- 第4回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 3 (開発過程下の人々)
- 第5回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 4 (都市における開発)
- 第6回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 5 (農村における開発)
- 第7回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 6 (人の移動と資本の流れ)
- 第8回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 1 (社会開発のための社会分析)
- 第9回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 2 (国際協力としての実践的手法)
- 第10回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 3 (参加型社会開発の実践)
- 第11回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 1 (社会配慮の全体概念の理解)
- 第12回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 2 (廃棄物をめぐる環境教育)
- 第13回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 3 (ウエイスト・ピッカーと児童労働)
- 第14回 『中国の水環境問題』を読み解く
- 第15回 まとめ

必要に応じてユネスコやインド科学・環境センターの英文資料を読む

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...40% 小課題の提出...40% 口頭試験..20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は指定文献を読み、自らの意見をまとめておくこと、事後学習は、口頭試験の準備のために授業で習ったことを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

文献によってはある程度の英語の読解力が必要とされるので、日常的に英語力を磨いておくこと。また、日ごろから自らの生活を顧みておくこと。途上国との関係がそこに現れている。
途上国に関心のある者には特に受講を勧めたい。学部生とともに水俣などのスタディツアーに出かけることもある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年は新型コロナ禍により、外国への渡航も制限されているが、状況が許せば、本授業の履修後は、途上国現地に出かけ、自らの眼で観察調査をしてきてもらいたい。学部学生と一緒にスタディツアーに出かけることもあるので、一緒に参加することを勧める。

キーワード /Keywords

開発途上国 水俣病 環境・社会破壊 廃棄物管理 社会配慮

地域経済政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC540S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	地域経済政策論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、加速化するグローバル競争、地域格差の拡大が進む中、地域経済を支えるこれまでの地域経済政策は転換を余儀なくされている。しかし、時宜になかった産業政策の展開が求められる一方、地域のポテンシャルを超えた展開や地域社会との対話のない発展では地域の持続的な発展につながらない。

地域経済政策論Ⅲでは、地域経済が直面する現状と課題を概観した後、地域経済政策の変遷に触れながら、地域経済の活性化とはどのようなことなのか、企業・地域の成長戦略における場所の意味は何か、地域社会との関係など具体的な事例を交えながら検討していく。新型コロナウイルスが地域経済に与える影響についても議論したい。

受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】

地域経済政策に関する応用的な専門的知識を総合的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

地域経済活性化等の政策展開について、地域分析手法を用いながら政策を評価し、自分の考えや意見を明確かつ論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
・講義の中で適宜紹介する。

地域経済政策論Ⅲ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下に示したのは例示である。受講生と相談しながら具体的内容を決定する。

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 産業構造の変化と地域経済政策の枠組み
4. 地域経済政策の課題① - ものづくり産業の衰退
5. 地域経済政策の課題② - 地方創生を担う中小企業
6. 地域経済政策の課題③ - コミュニティベース
7. 地域経済政策の変遷 - 地域開発と内発的発展
8. 地域経済の活性化① - 持続可能な地域の条件
9. 地域経済の活性化② - 基盤産業と非基盤産業
10. 地域経済の活性化③ - 地域内経済循環事例
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値、立地戦略の方向性
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 地域経済と地域社会の接点 - 企業と社会の関係
14. 新型コロナウイルスと地域経済
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題レポート50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁です。理由なく教員の指導に従わない行動をとった場合、以後の受講を認めません。
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクでの研究や地方自治体で地域政策実務経験等を踏まえ、深刻化する地域経済を支える今後の産業政策のあり方について、受講生と議論をたく考えています。
- ・ 幅の広い視点や柔軟な発想を持った受講生を歓迎します。

キーワード /Keywords

地域経済政策論Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号・コース		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
PLC540S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	地域経済政策論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域経済政策論Ⅳでは、「創造」と「マネジメント」をテーマとする。
具体的にはまちづくり活動と連動しながら公共施設や公共空間をはじめとした地域の価値創出に挑む地域創造、交流人口の増加を軸とした地域活性化の具体的な展開に焦点をあてる。
とりわけ近年は、地域性と連動する文化的資源の活用や地域内に所在する諸資源とまちづくりを連結させたアートプロジェクトが注目されていることを踏まえ、経済性を伴う都市文化政策や文化観光政策に注目する。
この他、ふるさと納税やクラウドファンディングに見られる新たな資金調達技術、地域プロモーションやマーケティング、パートナーシップ政策、地域ブランドの創造、観光まちづくりやスポーツまちづくりなど、都市マネジメントや都市政策と巧みに連動しながら展開される地域創造について考えていきたい。
受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。受講者の関心を踏まえた事例分析を中心としながら、地域の価値創出の本質と政策展開や政策技術に関するディスカッションを行いたい。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】

地域経済政策に関する応用的な専門的知識を総合的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

地域ビジネス等による地域経済政策について、政策目的と展開を探究し、自分の考えや意見を明確かつ論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐々木雅幸編(2019)『創造社会の都市と農村』水曜社
- 佐々木雅幸編(2014)『創造農村』学芸出版社
- 池田潔編(2014)『地域マネジメント戦略』同友館
- 諸富徹(2017)『人口減少時代の都市』中央公論新社
- 宮副健司(2014)『地域活性化マーケティング』同友館
- ・この他、講義の中で適宜紹介する。

地域経済政策論Ⅳ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 受講生の関心に基づき、内容を適宜アレンジします。
- 第1回 オリエンテーション - 本講義の目的と概要
 - 第2回 都市マネジメントの変遷と課題
 - 第3回 パートナーシップ手法を活用した地域創造
 - 第4回 公共施設・公共空間の変容
 - 第5回 地域課題をビジネスで解決する - 社会的企業の台頭
 - 第6回 地域資源の戦略的活用と地域創造
 - 第7回 公共領域における地域創造 - 事例研究 (院生発表)
 - 第8回 創造都市論と創造農村論
 - 第9回 文化的資源の活用と創作活動
 - 第10回 地域指向型アートプロジェクトの興隆
 - 第11回 シビックプライドとシティプロモーション戦略
 - 第12回 地域マーケティング、地域プロモーション、地域ブランド
 - 第13回 文化創造のマネジメントと担い手 - クラウドファンディングなど
 - 第14回 文化創造によるまちづくりの展開 - 院生発表
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題レポート50%、発表や討議への参加など授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁とします。
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、持続可能な地域社会の再構築に向けて、特産品の開発や交流人口の増加など地域資源を活用した地域の価値創出及びそのメカニズムに関心を持っています。
- ・ とりわけ近年は、文化的資源を活用した観光まちづくりや地域指向型アートプロジェクトに関する研究を進めています。
- ・ 多彩な事例をもとに、新しい経済主体と活動、政策効果について読み解いていくので、多角的な主体が参画するまちづくりに関心を持ち、積極的な学習意欲のある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

公共政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	公共政策論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている。例えば、公共政策研究の方法論を研究するために『公共政策学の基礎』を多角的視点から輪読したり、「まちづくり」を中心とした問題（たとえば、中心市街地の空洞化問題、限界集落・限界コミュニティの問題等）あるいは「ガバナンス」に関連する問題を取り上げ考察したいと考えている。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】公共政策に関する専門的知識と分析能力を総合的に有している。

【高い問題解決能力と表現力】公共政策について、学際的・複眼的に思考して解決策を探索し、自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2011年）。

公共政策論III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 公共政策とは何か
- 第3回 公共政策学の系譜
- 第4回 公共政策のアクター
- 第5回 アジェンダ設定理論
- 第6回 政策問題の構造化
- 第7回 公共政策の手段
- 第8回 公共政策規範
- 第9回 公共政策の決定と諸理論
- 第10回 公共政策の実施
- 第11回 公共政策の評価
- 第12回 政策決定とアイデア
- 第13回 公共政策とガバナンス
- 第14回 公共政策とソーシャルキャピタル
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC510S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	公共政策論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、公共政策の方法論に関する問題が、都市部の「限界コミュニティ」の問題や単身世帯急増など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】公共政策に関する高度な専門的知識と分析能力を体系的かつ総合的に有している。

【高い問題解決能力と表現力】公共政策について、学際的・複眼的に思考して解決策を探索する高い問題解決能力と自分の考えを適切な方法で表現する能力を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

芳賀祥泰編著『福祉の学校-安全・安心・快適な福祉国家を目指して-』（エルダーサービス、2010年）。

藤森克彦『単身世帯急増社会の衝撃』（日本経済新聞社、2010年）。

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 現代日本の公共政策とそのポイント(1)-少子高齢社会
- 第3回 現代日本の公共政策とそのポイント(2)-人口減少社会の到来
- 第4回 現代日本の公共政策とそのポイント(3)-巨額の財政赤字
- 第5回 現代日本の公共政策とそのポイント(4)-単身世帯の急増
- 第6回 現代日本の公共政策とそのポイント(5)-格差社会
- 第7回 限界集落とは何か
- 第8回 限界集落と事例研究
- 第9回 限界集落の再生
- 第10回 都市の限界コミュニティ
- 第11回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 第12回 限界コミュニティの再生
- 第13回 フードデザート、買い物難民(弱者)とは？
- 第14回 買い物難民(弱者)の対策
- 第15回 まとめ

公共政策論Ⅳ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (プレゼンテーション等も含む) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジюмеを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

福祉政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC530S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	福祉政策論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本の介護、保育、障害者福祉などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。介護、保育、障害者福祉に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

【専門的知識・技能】社会保険・公的扶助の政策的課題について必要な情報を収集、分析することができる。

【問題解決能力・表現力】社会保険・公的扶助の課題について、総合的に思考して解決策を探求し、具体的な政策を表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会福祉事業について
- 第2回 社会福祉サービスの事業主体
- 第3回 社会福祉法人の公益性
- 第4回 介護サービスと民間事業者
- 第5回 介護サービスへの民間事業者参入の是非
- 第6回 介護保険料の地域間格差の是非
- 第7回 介護の社会化は達成されたのか？
- 第8回 公立保育所民営化の是非
- 第9回 幼保一体化について
- 第10回 男女共同参画と少子化対策
- 第11回 少子化対策は無意味？
- 第12回 障害の概念について
- 第13回 障害者の一般就労について
- 第14回 社会的雇用について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論III 【夜】

履修上の注意 /Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

福祉政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC530S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	福祉政策論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本の年金、医療、生活保護などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。年金、医療、生活保護に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

【専門的知識・技能】社会福祉サービスの政策的課題について必要な情報を収集、分析することができる。

【問題解決能力・表現力】社会福祉サービスの課題について、総合的に思考して解決策を探索し、具体的な政策を表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ベーシック・インカムとは
- 第2回 ベーシック・インカム導入の是非
- 第3回 福祉国家の三類型
- 第4回 福祉国家としての日本の特徴
- 第5回 基礎年金の税方式化の是非
- 第6回 公的年金の一元化の是非
- 第7回 第3号被保険者問題について
- 第8回 短時間労働者と年金
- 第9回 診療報酬について
- 第10回 混合診療導入の是非
- 第11回 高齢者医療制度について
- 第12回 後期高齢者医療制度の是非
- 第13回 生活保護について
- 第14回 生活保護の給付水準をめぐる議論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

福祉政策論Ⅳ 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC520S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	環境政策論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「市場失敗」や社会問題の増加に伴い、政府の役割やその機能がよく議論されている。実際に、政府の組織、予算規模、政策対象も大きく拡大している。しかし、政府失敗や政策の失敗の事例も多く、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する議論も多くなっている。

政府機能・役割・政府失敗・政策失敗に関する知識の取得。

- ①政府機能・役割に関する論文や著作を読んで議論する。
- ②政府失敗・政策失敗について議論する。

専門知識の活用能力を高める。

- ①政府失敗・政策失敗に関する知識を活用する。
- ②レポートや論文などで応用し、分析してみる。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】 環境問題における多様な観点と利害関係についての知識を修得する。

【高い問題解決能力と表現】 環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する著作、論文を読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 林正義、小川光、別所俊一郎(2010)、公共経済学、有斐閣アルマ
- 建林正彦、曾我謙悟、待鳥聡史(2008)、比較政治制度論、有斐閣アルマ
- 惣宇利紀男(2003)、公共部門の経済学-政府の失敗、阿咩社

その他、制度論、The Principal-Agent Model やGame Theory 関連の論文や著作。

環境政策論III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 関連書籍や議論の紹介。
- 第2回 公共経済学I【市場失敗】
- 第3回 公共経済学II【Free-rider、Public Goods】
- 第4回 公共経済学III【公共経済と政策】
- 第5回 公共経済学IV【理論】
- 第6回 公共部門の経済学【政府の失敗に関する理解】
- 第7回 公共部門の経済学【政策失敗：官僚、予算】
- 第8回 公共部門の経済学【比較事例】
- 第9回 比較政治制度論【制度論】
- 第10回 比較政治制度論【比較分析】
- 第11回 比較政治制度論【比較一環境事例】
- 第12回 Game Theory 関連論文の議論。
- 第13回 Game Theory やThe Principal-Agent Model 関連論文の議論。
- 第14回 The Principal-Agent Model やガバナンス関連論文の議論。
- 第15回 まとめ。
- その他、論文のコピーを配布する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの報告 (60%) 議論 (40%) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
参考文献の中で関連文献を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治家、官僚、市民、政府機能、政府役割、政府失敗、政策失敗、

環境政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC520S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	環境政策論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

環境問題：地球規模の環境問題、気候変動と農業・災害・都市の生活基盤との関係、福島事故と災害の問題など。
環境政策：温暖化対策、エネルギー政策、リスク管理政策などについての理解と専門知識の取得。

以上の内容、他のテーマに関する内容を研究する。

- ①環境問題や環境政策を理解するため、論文や著作を読んで議論し、理解力を高める。
- ②環境政策の形成過程を分析する理論的視座について勉強し、その議論を深める。

専門知識の活用能力を高める。

- ①環境政策の形成に関する専門的知識を応用する。
- ②環境政策の事例を取り上げ、分析してみる。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】環境問題に関する多様な理論と知識を修得する。
- 【高い問題解決能力と表現】環境関連の資格に必要な情報やスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、環境問題や環境政策に関する論文、著作を読んで議論する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『環境経済学』（宮本憲一著、岩波書店、¥3,990）
- 『環境社会学』（船橋晴俊著 成文堂 ¥2,700）
- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『脱原子力の運動と政治-日本のエネルギー政策の転換は可能か』（本田 宏著 北海道大学図書刊行会 ¥6,300）

その他 英文、リスク管理関連の論文のコピーを配布する。また、視聴覚資料 (youtube、DVD) を参考する。

環境政策論Ⅳ 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容と本の説明、紹介。
- 第2回 環境問題の社会史【人間生活と環境】
- 第3回 環境問題の社会史【環境問題と社会史】
- 第4回 環境経済学【環境問題と経済学】
- 第5回 環境経済学【政策手段】
- 第6回 環境経済学【自律協定と排出取引権】
- 第7回 【温暖化問題】
- 第8回 【エネルギーイシューと論点】
- 第9回 【原子力と再生エネルギー】
- 第10回 【再生可能エネルギーの政治学】
- 第11回 【再生可能エネルギーの経済学】
- 第12回 【脱原子力の運動と政治】
- 第13回 【リスク管理政策】
- 第14回 アメリカでの研究、考察
- 第15回 海外での研究、考察、授業の総括

その他、論文や資料を読み、議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告(70%)、レポート(30%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

政策過程論、環境政策を受講すること。
論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。
参考文献を参照し、読むこと。

論文や記事などを読んで、論者の問題意識、論点について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「環境」というのは、単なる自然環境ではなく、人間生活を可能とするミナモトであり、人間と社会経済との関係をつなぐ媒介でもあります。環境は、人々の考え方、文化、そして制度によって異なる現象であります。「環境」の在り方を見つめることは、「社会構成原理」や「人間社会の在り方」を見つめることにもなります。このような議論の一つが「持続可能な」社会でしょう。「環境」を考えることは、「今」・「ここ」という我々の生活に限定されない次世代に渡るコミュニケーションでもあります。

キーワード /Keywords

人間生活と社会経済、制度、関係、アクター、利益、費用と便益、政策過程

政策評価論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC560S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政策評価論Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に理論）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

（到達目標）

【高度な専門的知識・技能】

評価論・評価研究に関する専門的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】

政策評価・政策分析に必要なスキルを身に付けている。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- エステル・デュフロほか[小林庸平監訳] (2019) 『政策評価のための因果関係の見つけ方：ランダム化比較試験入門』日本評論社
 - キャロル・H・ワイス[佐々木亮監訳] (2014) 『入門評価学』日本評論社
 - 古川俊一・北大路信郷 (2004) 『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- ほか、受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

政策評価論III 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【行政組織と行政評価】
- 8回 受講生の研究報告【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
- 9回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
- 10回 文献輪読【欧米諸国における行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【日本の地方自治体における行政評価の先進事例研究】
- 12回 文献輪読【日本の中央省庁における行政評価の先進事例研究】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献報告および研究報告は、受講者数・学年を問わず最低2度は行ってもらう予定ですので、その準備と発表後のコメントの整理がそれぞれ事前・事後の学習となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいという議論ができればと思っています。

キーワード /Keywords

政策評価論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
PLC560S	研究(法律)		◎	
	専修(法律)		◎	△
	研究(政策)	◎	○	
	専修(政策)	◎	○	
科目名	政策評価論Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献（日本語および英語・主に実証分析）を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する（パワーポイント等を用いてもよい）。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

（到達目標）

【高度な専門的知識・技能】

評価論・評価研究に関する専門的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】

政策評価・政策分析に必要な手法を適切に運用できる能力を身に付けている。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- C・H・ワイス[佐々木亮監修] (2014) 『入門評価学』日本評論社
- エステル・デュフロほか[小林庸平監訳] (2019) 『政策評価のための因果関係の見つけ方：ランダム化比較試験入門』日本評論社
- 大橋弘 (2020) 『EBPMの経済学：エビデンスを重視した政策立案』東京大学出版会
- 小塩隆士 (2012) 『効率と公平を問う』日本評論社
- 古川俊一・北大路信郷 (2004) 『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版

ほか受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

政策評価論Ⅳ 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】【リサーチ・クエスチョン】【仮説】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【評価における統計的分析】
- 8回 受講生の研究報告【先行研究との関連】【分析の進捗】
- 9回 文献輪読【公的部門における評価基準・評価手法の検討】
- 10回 文献輪読【日本の地方自治体を中心とした行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【外部評価制度の事例研究】
- 12回 文献輪読【外部評価制度の問題点】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献報告および研究報告は、受講者数・学年を問わず最低2度は行ってもらう予定ですので、その準備と発表後のコメントの整理がそれぞれ事前・事後の学習となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。

キーワード /Keywords

行政学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	行政学特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

行政学に関する修士論文の指導を行うことを目的とする。

(到達目標)

DP 3 高い倫理観に基づいた自律的行動力：行政学について、複眼的に、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地から論理的に表現することができる。

DP 2 高い問題解決能力と表現力：行政学に必要な情報を収集、分析することができる。

DP 1 高度な専門的知識・技能：行政学を体系的かつ総合的に理解している。

教科書 /Textbooks

受講生との相談で決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生との相談で決定する。

行政学特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回論文に慣れる【論文を集める】
- 第3回論文に慣れる【論文のスケルトンをつかむ】
- 第4回論文に慣れる【論文を読む】
- 第5回論文に慣れる【まとめ】
- 第6回リサーチエスチョンを立てる【リサーチエスチョンとは】
- 第7回リサーチエスチョンを立てる【論文のリサーチエスチョンを見える】
- 第8回リサーチエスチョンを立てる【修論のリサーチエスチョンを見える】
- 第9回リサーチエスチョンを立てる【まとめ】
- 第10回自分の論文のスケルトンに挑戦する【第1回】
- 第11回論文を読む【外国文献を集める】
- 第12回論文を読む【外国文献を読む】
- 第13回論文を読む【外国文献のスケルトンをつかむ】
- 第14回論文を読む【外国文献のまとめ】
- 第15回先行研究の重要性
- 第16回行政学の先行研究【著書を繙く】
- 第17回行政学の先行研究【論文を繙く】
- 第18回先行研究から文献リストをつくる
- 第19回リサーチ方法についての検討
- 第20回専門文献の読解【文献①】
- 第21回専門文献の読解【文献②】
- 第22回専門文献の読解【文献③】
- 第23回専門文献の読解【文献④】
- 第24回専門文献の読解【文献⑤】
- 第25回自分の修士論文のスケルトンに挑戦する【第2回】
- 第26回修士論文内容の報告
- 第27回報告で不足分の文献読解
- 第28回修士論文内容の報告【第2回】
- 第29回報告で不足分の文献読解【第2回】
- 第30回修士論文に向けての注意

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な参加・・・50%、毎回の準備・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。) 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治思想史特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	政治思想史特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

政治思想史（政治思想史もしくは現代政治理論）に関する修士論文の作成を指導します。研究課題への理解を深めることはもちろん、文献調査などの研究の技法、論文執筆のルールといった基礎的事項の確認のみならず、アイデアを展開する方法や、ロジカルな一貫性などについても注意を払い、質の高い論文を作成するための力も併せて伸ばしていきます。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】政治思想史研究に関する応用的知識を体系的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】政治思想史研究の知見を用いて社会の問題を考察することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】政治思想史研究の観点を活用して社会の諸問題に自発的に取り組みを行うことができる。

教科書 /Textbooks

必要であれば受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究課題や伸ばすべきスキルに応じて、適宜指示します。

政治思想史特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文執筆に向けた研究とは何か
- 第2回 研究論文の構成と学術倫理
- 第3回 研究計画の立て方
- 第4回 研究計画の完成
- 第5回 文献調査の方法
- 第6回 文献調査の実際 1
- 第7回 文献調査の実際 2
- 第8回 文献のレビューと問題設定 1
- 第9回 文献のレビューと問題設定 2
- 第10回 執筆計画の作成 1
- 第11回 執筆計画の作成 2
- 第12回 アウトラインの意義と役割
- 第13回 アウトラインから全体を構成する
- 第14回 引用注の付け方
- 第15回 第1草稿の作成 1
- 第16回 第1草稿の作成 2・学術倫理の再確認
- 第17回 第1草稿の作成 3
- 第18回 中間報告への準備
- 第19回 中間報告の実施
- 第20回 中間報告の整理と構成の見直し
- 第21回 不足・新規文献の調査と論点の追加・削除
- 第22回 不足・新規文献調査報告 1
- 第23回 不足・新規文献調査報告 2
- 第24回 論文アウトラインの見直し
- 第25回 第2草稿検討 1
- 第26回 第2草稿検討 2
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 修正点の確認と変更
- 第30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...50% 報告(論文草稿)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に指示した文献や資料を読み、まとめを作成してください。授業後は議論・指示した内容について、まとめをつくること。また、授業進度に応じて、論文草稿を作成すること。

履修上の注意 /Remarks

授業への要望は随時受けつけます。遠慮せずに知らせて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 4単位 /Semester 1・2学期(バ) /Class Format 演習 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	途上国開発論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

修士課程での学習・研究の集大成として位置づけられる修士論文の作成の指導を行う。領域は開発途上国の開発問題や社会問題、ESDやSDGs、環境教育・開発教育などである。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

問題解決能力と表現力：途上国開発研究に必要な手法を適切に運用できる能力を身につけている
自律的行動力：途上国開発研究の観点からの論理的な分析を理解し、その成果を批判的に考察できる力を身につけている

教科書 /Textbooks

- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- * その他 その都度指示・配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 関係する新聞や雑誌記事などをその都度配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 修士論文についての説明	第2回 修士論文のテーマの設定について
第3回 修士論文のねらいの確定	第4回 修士論文の論旨と構成について
第5回 調査方法と資料収集(文献調査)	第6回 調査方法と資料収集(面接調査)
第7回 調査方法と資料収集(標本調査)	第8回 標本調査の分析について
第9回 修士論文の注記について	第10回 修士論文の参考文献について
第11回 修論の進捗状況(はじめに)	第12回 修論の進捗状況(1章前半)
第13回 修論の進捗状況(1章後半)	第14回 修論の進捗状況(2章前半)
第15回 修論の進捗状況(2章後半)	第16回 修論の進捗状況(3章前半)
第17回 修論の進捗状況(3章後半)	第18回 修論の進捗状況(4章前半)
第19回 修論の進捗状況(4章後半)	第20回 修論の進捗状況(5章前半)
第21回 修論の進捗状況(5章後半)	第22回 修論の進捗状況(おわりに)
第23回 全体構成の再確認	第24回 全体構成と論旨の再検討
第25回 修論1章の再発表(修正付き)	第26回 修論2章の再発表(修正付き)
第27回 修論3章の再発表(修正付き)	第28回 修論4章の再発表(修正付き)
第29回 修論4・5章の再発表	第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への態度...50% 調査方法や執筆内容の正確さ・緻密さなど...50%

途上国開発論特別研究II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文、特定課題論文を仕上げるために本授業が置かれている。事前学習は論文の書き方に関する資料を入手・熟読し、日ごろから新聞記事や文献などで必要な情報を得ておくこと、事後学習は、授業で指摘されたことを再度整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

修士課程の集大成であるので、議論が的確にできるように準備を怠らないこと。参加型調査手法を取る学生は、できるだけ足しげく現場に足を運ぶこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文献ばかりを扱うだけでなく、現場を重視する政策学を志向するために、参加型調査手法をできるだけ採り入れてほしい。

キーワード /Keywords

修士論文 テーマ設定 論理構成力 参加型調査手法

地域経済政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	地域経済政策論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を 自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域に所在する文化的資源などの地域資源を活用しながら地域の魅力あるいは価値創出に挑む地域政策の展開、地域活性化のメカニズム、地域創造の成果と課題などをテーマに、理論的洞察と実証的な研究方法を採用した政策研究に関する修士論文を作成する。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】

特定の地域経済政策に関する応用的な専門的知識や政策分析能力を総合的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

特定の地域経済政策についての政策研究課題を自ら設定し、適切な調査研究活動を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。なお、修士論文作成に参考となる論文・文献等は別途指示する。

地域経済政策論特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

修士研究を推進するために必要な研究方法に関するレクチャーをおりまぜながら、基本的には受講生からの問題提起、教員との討議、文献調査、研究仮説の設定、論点の抽出、調査設計、調査活動(実査)、知見の抽出、レポート作成、中間報告、論文執筆といった順に展開していく。

以下に示す授業計画はあくまで標準的なものであるが、受講生の研究テーマや研究手法に応じて適宜アレンジすることで実効性を高める。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 研究論文とは
- 第3回 地域創造と地域経済政策
- 第4回 問題関心と研究テーマの選定について
- 第5回 リサーチクエストと仮説立案
- 第6回 先行研究調査方法-図書館等の使い方
- 第7回 先行研究調査方法-文献収集
- 第8回 先行研究の報告(院生)
- 第9回 先行研究と研究テーマとの関連性(討議)
- 第10回 研究方法論-質的調査
- 第11回 研究方法論-量的調査
- 第12回 研究テーマの設定、研究計画書の作成
- 第13回 研究方法の検討
- 第14回 論文の構成について
- 第15回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第16回 研究課題報告
- 第17回 調査の設計
- 第18回 調査対象の検討
- 第19回 調査票の作成
- 第20回 調査の実施
- 第21回 調査結果の整理
- 第22回 調査結果の分析
- 第23回 調査結果の報告
- 第24回 中間報告の準備
- 第25回 中間報告の実施
- 第26回 中間報告の論評・修正
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告の修正
- 第30回 まとめ・意見交換

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業での報告 50%、期末レポート(中間報告) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 十分に事前準備を行ったうえで報告を行うこと。授業終了後は、討議内容を踏まえながら自分の考えを整理すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
- ・ 無断欠席、理由のない遅刻などの逸脱行動は厳禁です。理由なく教員の指導に従わない行動をとった場合、以後の受講を認めません。
- ・ 講義資料や講義内容を無断で公開するなどの二次使用を禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	公共政策論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

公共政策もしくは地域公共政策の論文指導を行う。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスションのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定である。

(到達目標)

【高度な専門的知識】公共政策の論文作成に関する高度な専門的知識を体系的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】公共政策の論文作成に際して、学際的・複眼的に思考して自らのテーマをを探索する高い能力を身につけ、自分の考えを適切な方法で表現することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】公共政策の論文作成に関する技法と作法を身につけ、論文作成に積極的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介します。

公共政策論特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

- 第1回 導入
- 第2回 修士論文作成に際しての心得
- 第3回 テーマの選定について
- 第4回 リサーチクエスションをたてる
- 第5回 仮説をたてる
- 第6回 文献調査について(1)-図書館等の使い方
- 第7回 文献調査について(2)-邦語文献の収集
- 第8回 文献調査について(3)-外国語文献の収集
- 第9回 第一次文献リストの作成
- 第10回 量的調査
- 第11回 質的調査
- 第12回 テーマの(仮)決定
- 第13回 論文の構成について
- 第14回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第15回 論文の体裁についての指導
- 第16回 テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 先行研究及び関連研究の検討
- 第19回 先行研究と自らの研究の検討(先行研究のどこを乗り越えるのか)
- 第20回 調査方法の検討
- 第21回 調査票等の作成
- 第22回 調査の設計
- 第23回 調査の実施
- 第24回 調査結果の整理
- 第25回 調査結果の報告
- 第26回 中間報告の準備
- 第27回 中間報告
- 第28回 中間報告の論評・修正
- 第29回 最終報告
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示した箇所は必ず前もって検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

福祉政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	福祉政策論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会保障をめぐる政治・行政・政策を研究内容とした修士論文を作成します。日本の社会保障制度の概要や主要論点を理解し、年金、医療、介護、保育、障害者福祉などを扱った先行研究をふまえたうえで、研究課題に取り組みます。

(到達目標)

【知識・技能】

社会保障についての基礎的な知識を身につけ、政策提案に必要な情報を収集、分析することができる。

【表現力】

社会保障の課題について、総合的に思考して解決策を探求し、具体的な政策を提案することができる

【行動力】

社会保障への関心とキャリア意識を持ち続け、主体的に行動できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の関心にあわせて指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心にあわせて指示します。

福祉政策論特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 学術論文とは
- 第2回 社会保障制度の理解①社会保険・公的扶助
- 第3回 社会保障制度の理解②社会福祉サービス
- 第4回 図書館の利用について
- 第5回 先行研究の収集
- 第6回 先行研究の検討
- 第7回 先行研究についての報告
- 第8回 先行研究と自らの研究の関連性を考察する
- 第9回 研究課題の設定
- 第10回 研究計画の作成
- 第11回 資料収集方法の検討
- 第12回 調査方法の検討
- 第13回 調査の準備
- 第14回 論文の構成
- 第15回 引用・注釈など書式について
- 第16回 研究課題の報告
- 第17回 調査票等の作成
- 第18回 調査の設計
- 第19回 調査の実施
- 第20回 調査結果の整理
- 第21回 調査結果の報告
- 第22回 研究成果の分析
- 第23回 研究成果のまとめ
- 第24回 中間報告の準備
- 第25回 中間報告の実施
- 第26回 中間報告の修正
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告の修正
- 第30回 意見交換

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告・・・50% 期末レポート(修士論文中間報告)・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料等をしっかりと読み、報告の準備をしてください。また、授業終了後は、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 通年 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	環境政策論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法律学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

社会科学、政策研究の調査方法、データ収集、論理構成と論文の書き方の学習。

- ①レポートや論文作成に向けた調査方法、データ収集方法について勉強する。
- ②社会現象から、科学的事実、データ、社会的解釈、概念構成、価値などの論理構成について勉強する。
- ③論文の書き方と発表方法などについて知ってもらう。

専門知識の活用能力を高める。

- ①政策事例の選定と理解、知識を深める。
- ②受講者の研究テーマ、政策事例に関する調査を行い、レポート、論文を作成する。

(到達目標)

- 【高度な専門的知識・技能】環境問題とその背景について理解し、知識を深く修得する。
- 【高い問題解決能力と表現】環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につける。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】環境政策をめぐる利害関係や政治過程をより深く理解し政策解決力を高める。

教科書 /Textbooks

『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤 修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会科学のリサーチ・デザイン-定性的研究における科学的推論』（G.キング外著 真淵勝監修 勁草書房 ¥3,990）
- 『ケース・スタディの方法』（ロバート K.イン著、近藤公彦訳 千倉書房 ¥3,675）
- 『社会学研究法 リアリティの捉え方』（今田 高俊著 有斐閣アルマ ¥2,415）
- 『社会調査のための統計学 -生きた実例で理解する』（神林博史著 技術評論社 ¥2,079）

その他、受講者の研究テーマに合わせ、政策過程、環境関連の論文や著作を選定し議論する。

環境政策論特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介、関心テーマなどの共有
- 第2回 政策リサーチ入門【社会現象と科学】
- 第3回 政策リサーチ入門【研究目的と設計】
- 第4回 政策リサーチ入門【データ収集方法】
- 第5回 社会科学のリサーチ・デザイン【定性的研究】
- 第6回 社会科学のリサーチ・デザイン【科学的推論と仮説】
- 第7回 社会科学のリサーチ・デザイン【歴史的方法と事例選定】
- 第8回 社会学研究法 リアリティの捉え方【価値と事実】
- 第9回 社会学研究法 リアリティの捉え方【研究方法の選定と設計】
- 第10回 社会学研究法 リアリティの捉え方【調査方法】
- 第11回 社会調査のための統計学【回帰分析】
- 第12回 社会調査のための統計学【重回帰分析】
- 第13回 社会調査のための統計学【相関分析】
- 第14回 ケース・スタディの方法【単一研究】
- 第15回 ケース・スタディの方法【比較研究】
- 第16回 ケース・スタディの方法【単一方法の事例】
- 第17回 ケース・スタディの方法【比較事例：環境】
- 第18回 ケース・スタディの方法【比較事例：他事例】
- 第19回 関連論文の考察【量的研究の事例】
- 第20回 関連論文の考察【量的研究】
- 第21回 関連論文の考察【質的研究】
- 第22回 関連論文の考察【質的研究の事例】
- 第23回 関連論文の考察【単一研究】
- 第24回 関連論文の考察【単一研究】
- 第25回 関連論文の考察【単一研究】
- 第26回 受講者の研究テーマ関連の論文【問題意識】
- 第27回 受講者の研究テーマ関連の論文【方法論】
- 第28回 受講者の研究テーマ関連の論文【論文構成と論理】
- 第29回 受講者の研究テーマ関連の論文【討論と結論】
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告(80%)、レポート(20%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、毎回参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

新聞記事や社説を読み、社会現象(事象)、社会的事実、データ(収集方法・調査方法)、仮説、科学的推論、社会的解釈、論理構成などを調べる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リアリティの捉え方、リサーチ・デザイン、科学的推論、仮説と仮説検証、論理構成と社会的解釈、政策事例。

政策評価論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
MAT611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)	△	○	◎
	専修(政策)			
科目名	政策評価論特別研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本または海外諸国における公的部門の評価制度に関する事例や研究成果（日本語および英語、理論・実証などジャンル等は特に限定しない）を把握・理解したうえで、修士論文執筆のための基礎・論拠をつくることを目的とする。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】

評価論・評価研究に関する専門的かつ体系的な知識を身に付けている。

【高い問題解決能力と表現力】

政策評価・政策分析に必要な情報を自ら獲得・構築し、それをを用いて適切に解析できる能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

政策研究の観点からの論理的な分析をもとに、様々な分野の施策・事業等の効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生と研究テーマにより決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社
 - 近藤克則 (2018) 『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
 - 酒井聡樹 (2015) 『これから論文を書く若者のために: 究極の大改訂版』共立出版
 - 佐藤雅昭 (2016) 『なぜあなたは論文が書けないのか?』メディカルレビュー社
- ほか、受講生の研究テーマにより適宜紹介する。

政策評価論特別研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 政策評価・行政評価制度の理解(1)【指標】【手法】【実施根拠】【事例】
- 第3回 政策評価・行政評価制度の理解(2)【外部評価】【政策分析】
- 第4回 研究テーマの検討
- 第5回 研究テーマの選定
- 第6回 リサーチクエストの検討
- 第7回 リサーチクエストの選定
- 第8回 文献・資料・データ等の収集について
- 第9回 分析対象・分析方法について
- 第10回 研究計画の作成
- 第11回 学術論文の書き方
- 第12回 研究計画の確定
- 第13回 先行研究の検討
- 第14回 先行研究の整理と分析
- 第15回 分析対象・分析方法の検討
- 第16回 研究テーマ・リサーチクエストの再考と確認
- 第17回 分析対象・分析方法の整理と確認
- 第18回 中間報告について
- 第19回 中間報告の準備
- 第20回 中間報告の実施
- 第21回 中間報告でのコメントの整理と意見交換
- 第22回 分析対象・分析方法の確認
- 第23回 調査・分析の設計
- 第24回 調査・分析の実施
- 第25回 調査・分析結果の整理
- 第26回 調査・分析結果の報告
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告でのコメントの整理と意見交換
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(中間・最終を含む)70%、議論への参加・貢献30%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいうでの議論ができればと思っています。

キーワード /Keywords

地域政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 榎原 真二 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
AST611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)	△	○	◎
科目名	地域政策特定課題研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

地域公共政策、NPO、市民参加等に関する論文(特定課題研究)の指導を行う。

(到達目標)

【高度な専門的知識・技能】地域政策特定課題研究を行うために必要な専門的知識を体系的に身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】地域政策特定課題研究に必要とされる、学際的・複眼的に思考して自らのテーマをを 探求する高い能力を身につけ、自分の考えを適切な方法で表現することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】地域政策特定課題研究の論文作成に必要とされる技法と作法を身につけ、論文作成に積極的に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介する。

地域政策特定課題研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は、受講生によって異なる。以下はあくまで一つの例として示した授業計画である。

- 第1回 導入
- 第2回 論文作成の基本的作業について
- 第3回 テーマを決める
- 第4回 先行研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 リサーチ・クエスチョンをたてる
- 第7回 仮説をたてる
- 第8回 ケース・スタディ(1)-ケース・スタディとは何か
- 第9回 ケース・スタディ(2)-どのような時にケース・スタディを使うのか
- 第10回 ケース・スタディ(3)-政策過程研究とケース・スタディ
- 第11回 ケース・スタディ(4)-まちづくりとケース・スタディ
- 第12回 ケース・スタディ(5)-比較研究とケース・スタディ
- 第13回 ケース・スタディ(6)-公共政策研究とケース・スタディ
- 第14回 ケース・スタディ(7)-ケース・スタディにおけるすぐれた事例研究の検討
- 第15回 1学期のまとめ

- 第16回 質的調査と量的調査
- 第17回 質的調査(1)-フィールドワーク
- 第18回 質的調査(2)-聞き取り調査
- 第19回 質的調査(3)-参与観察法
- 第20回 調査票を作成する
- 第21回 サンプルングについて
- 第22回 量的調査の実施と分析方法
- 第23回 クロス表を作成する
- 第24回 統計的検定について
- 第25回 実際に調査を設計する
- 第26回 調査をまとめる
- 第27回 論文の構成について
- 第28回 引用注、参考文献リスト等について
- 第29回 推敲の必要性について
- 第30回 年間講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず、次に発表する部分のレジユメの作成等を行って講義にのぞんでいただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

比較政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 三宅 博之 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP		高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
科目記号	コース			
AST611R	研究(法律)			
	専修(法律)			
	研究(政策)			
	専修(政策)	△	○	◎
科目名	比較政策特定課題研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※法学専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

比較政策分野を対象に、修士課程の集大成として修士論文もしくは特定課題論文執筆の指導を行う。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

問題解決力・表現力：比較政治経済に関する必要な情報を自ら獲得・構築し、それをを用いて適切に解析できる能力を身につけている。
自律的行動力：比較政治経済学について、複眼的に、論理的に思考して解決策を探求し、専門の見地からを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- * その他 その都度指示・配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 酒井隆『アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2010年(2003年初版 第13刷) * 必要に応じてその都度配布する予定。

比較政策特定課題研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	比較政策についての議論を得たのちに、修士論文もしくは特定課題論文についての説明
第2回	修論の説明（テーマ設定）
第3回	修論の説明（ねらいについて）
第4回	修論の説明（調査方法：文献調査）
第5回	修論の説明（調査方法：面接調査）
第6回	修論の説明（調査方法：標本調査）
第7回	標本調査の分析について
第8回	修論の説明（章構成と論旨）
第9回	修論の説明（注記について）
第10回	修論の説明（参考文献について）
第11回	進捗状況の発表（はじめに）
第12回	進捗状況の発表（1章前半）
第13回	進捗状況の発表（1章後半）
第14回	進捗状況の発表（2章前半）
第15回	進捗状況の発表（2章後半）
第16回	進捗状況の発表（3章前半）
第17回	進捗状況の発表（3章後半）
第18回	進捗状況の発表（4章前半）
第19回	進捗状況の発表（4章後半）
第20回	進捗状況の発表（5章前半）
第21回	進捗状況の発表（5章後半）
第22回	進捗状況の発表（おわりに）
第23回	全体構成の再確認（注記、参考文献含む）
第24回	修論原稿の再発表（はじめにと1章）
第25回	修論原稿の再発表（2章）
第26回	修論原稿の再発表（3章）
第27回	修論原稿の再発表（4章）
第28回	修論原稿の再発表（5章）
第29回	修論原稿の再発表（おわりに、注記と参考文献）
第30回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 論文内容（論理構成力、分析力など）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各指導担当教員と話し合い、修士論文、特定課題論文に必要な資料を収集しておき、関連する文献を読んでおくこと、事後学習は授業で習ったことを自ら整理して、論文作成に生かすこと。

履修上の注意 /Remarks

調査方法は非常に重要なので、様々な文献を読んだりして、できるだけ事前に身に付けておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較政策分野で修士論文や特定課題論文を書く際は、調査方法をできるだけ多岐にして実態を把握する努力をしてください。

キーワード /Keywords

比較政策 修士論文 特定課題論文 参加型調査手法 フィールド（現場）